◎本號には靖國神社大祭の節愛國婦人會員盡力の光景を附錄とす

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢　一ヶ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料

廣告料一行六拾錢

本號全部候頼數

發行所　東京麹町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所

發行兼印刷人　山澤俊夫

編輯人　手島益雄

愛國叢書出版廣告

主婦の職分　第壹編

表裝は色刷にして美麗、印刷の鮮明なる、ふりつきたる假名のよき本なり

▲家庭の健全を謀らんと主婦は先づ本書を讀む可し
▲家庭の幸福を增さんと主婦は先づ本書を讀む可し
▲家庭の快樂を知らんと主婦は先づ本書を讀む可し

聞くべし現代二十餘名家の處說

婦人界唯一の讀本は是也

讀むべし婦人一代最重寶の良書

▲主婦の任務を盡さんと主婦は先づ本書を讀む可し
▲主婦の地位を進めんと主婦は先づ本書を讀む可し
▲主婦の領地を擴めんと主婦は先づ本書を讀む可し

▲いよ〳〵出來

▲實價金二拾錢

愛國婦人發行所

社說

愛國婦人會總會

愛國婦人會は、昨十九日を以て、其第六回の總會を、青山練兵場に於て開かる。當日は式場に於て昨年總會の際 皇后陛下の行啓あらせられて、親しく本會に下し賜ひし御令旨を奉讀し、總裁宮妃殿下には御臨場あらせられて、御諭旨を賜はりたり。定めて知る、全國より參集せられたる數萬の會員諸氏は、之を拜聽して有難き御思召に感泣し、軍人の遺族及び廢兵の現狀を見、戰爭當時の勇氣と熱心を奮ひ起して、誓て其救護の功を全ふせざれは止まさるの決心を固めらるゝことを。今回總會の式場たる青山練兵場は、昨年四月凱旋大觀兵式の擧げられたる地にして、世界に我か軍人の威武を示せる所なり。愛國婦人會の事業は戰爭なり立派なる戰爭なり。決して寢て居て出來るものにあらず、戰爭の氣持にて、一生懸命とならねは、滿足なる結果は到底望むべからざるなり。恐れ多くも、總裁宮妃殿下が、南船北馬屢々地方の支部總會に臨ませられて、親しく軍人の遺族及び廢兵を慰さめさせられ、躬を以て會員を統率獎勵あらせらるゝの御精神と御精勵とは、實に難有き極みにして、會の役員及ひ會員たるもの、對へまつるべき道は、たゞ其御跡に倣ひて奮勵努力の一あるのみ。戰爭は一時なり、會の事業は長久なり、遺族廢兵のあらん限りは、決して終るへきものにあらず、軍人の凱旋大觀兵式は、昨年青山に於て擧けられたれども、凱歌を奏するの日は尚遠しといふべし。然れとも奮發次第にては、如何ともなし得べし。願くは會及び會員諸氏は、この總會を機として、一日も早く其日の來ることに努められんことを。

一心

例もふりし雨乞の小町も女なり、我も又女なり。三十一文字は陳ず共、姿かけ偽り無き心、百首千首の和歌と成て、感應の雨を降し、願を叶へおはしませ、日頃信じ奉る普門品の天龍、八部、阿修羅、迦樓羅、緊那羅、摩睺羅、其外南海下界の龍神二人が願、女が一身の、血を絞つて雨となし、夫の大望、母の歎を止め給へ。慈悲妙大雲、樹甘露法雨、怖畏軍陣中、念彼觀音力と、虎、少將が小指を喰裂、流るゝ涙、諸共に、袖に浸して虚空に散し、一身五體に汗を流し、足を蹐て、肝膽碎き、天を拜し、地を拜し、祈る心ぞ無殘なる。

二人の女が命にかへて天道へ雨を祈る心ざし、「諸天も感應過たず、晴天忽ち常闇と、虚空に閃く電光、足高山に雲覆ひ、涙の雨を誘ひ來て、俄に降くる雨の足、篠を亂すが如くなり」。頼朝公の富士の牧狩より、鎌倉へ御入りの沙汰も、雨の爲に延引となつて、十郎五郎も首尾克く、父の仇工藤祐經を打ち取つたとある近松の名文、女の一心の恐ろしさを寫し得たるは、仇打の手際にも劣らぬ手際なり。されど此一心は、仇打に必要なるのみならず、日常萬端の仕事にもまた必要なり。靴でも一心に研けると、よい加減に研けるとは、光澤が違ふなり、况んや心の研きをや、一滴々々の雨垂れが、石を穿つといふも、屈託なく落ち通すからのことなり、何でも一生懸命になつてやれば、出來ぬといふことなし。意志の存する所には、自ら道あり、仕事は出來ぬものにあらず、出來ぬと思ふ心が出來さらぬなり。獅子は鼠を捕るにも、全力を以てす、日光も一所に集注すれば、木を焦がし、火を起す。針のよく刺し、刃の能く切るは、鐵全體が光端の爲に働けはなり、強き者も力を分ければ弱く、弱きものも、一つに固まれは強し。一心ほど恐ろしきものなし。力の弱きを嘆ずる勿れ、仕事の出來ぬを悲む勿れ、一心になれぬを、殘念に思へよ、今の日本はこの一心の入る時なり、たゞうか〳〵と暮しても、暮らせぬことはなけれども、それでは日本が泣くなり。鐵は熱せるを打つのみならず、また打て打て熱せざるべからず、大陽の熱は攝氏の六千度、人爲の最高温度はアークライト電燈の光る所にして、攝氏三千五百度なりといふ、されど熱心の熱は、何千度か度の知れざるものなり、熱心は熱よりも傳播力強く、一人の熱心は、よく千萬人に同温の熱を與ふ。ランプは他のランプに火を分つが爲に、自分の光を減ぜず、我等は本當に、熱心に、一心になれる人の、各方面に出て來りて、自分を燃やし、他人を燃して、こゝに一層偉大なる國民、偉大なる事業の現出せんことを望むものなり。

土產

愛國婦人會の總會に參列し、かねて勸業博覽會を見んため、此際出京せられし婦人は、定めて多きことなるべし、諸氏は何を土產に歸國せらるゝや、反物か、指環か、洋傘か、時計か、イルミネーションの美しきこと、往來の賑かなること、店飾りの綺麗なことの御話か、それもよからん、されと最大の土產は精神上の土產なり、見方によれば、撒水の泥濘にも、大なる意義、教訓あり、我等は諸氏が成るべく大なる土產を、持ち歸へられんことを望む。

●世界の模範的婦人となれ

男爵　松平正直

私は日本の婦人方に向つて一の注文がある、それは世界の模範的婦人となれと云ふ事である、これは大層六ケ敷い事のやうであるが、決して六ケ敷い事でない、若し眞にそれが六ケ敷い事ならば、日本は僅の間に世界の強國となる事も出來なかつたでありましやう、今日の日本の發展は武士道の發揚した結果である、凡そ物質的文明は、直ちに眞似が出來るものである、善き器械が發明されても、金さへ出せば直ちに求める事が出來る、軍艦、大砲、電信、電話の如き物質上のものは、直ちに取つて我が有とする事が出來るのであるが、精神上の文明は金で買へない、幾多の時間と、修養とを經た上でなくては得られるものでない、日本の婦人社會に於ても、古の平安朝時代の婦人には、學問もあり實に立派な婦人が輩出して居る、下つて武家時代に於ては、男子さへ學問もなかつたのであるから、女子には尚更無い、而し學問は無くても貞節とか、孝子だとか云ふ高尚なる行ひのある婦人は幾らもある、これは大和民族の特長で、天授的と云ふてもよい程である、つまり學問がなくても德の高い人が澤山に出來て居る、この美風が遺傳的に日本婦人に傳はつて居るのであるから、假令ひ西洋婦人と其物質的文明には負けて居つても、精神上の文明には確かに勝つて居ると云はねばならぬ、この勝つた精神的文明の上に、物質的文明を加へたならば、それこそ世界の模範的婦人となる事は請合ひである、物質的文明を採る事は格別な時間を要せぬ事は、前にも陳べた次第であるから、彼れの長を採つて、我れの短を補ふて、向上進步を計られん事を、私は日本の婦人に望んで居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

東西思想の區別

島田蕃根

嘗て佐久間象山先生の云はれた言葉に東洋は道徳的であつて、西洋は技藝的であると、ある實に當を得た言葉であると思ふ、今日日本國民が君主に對して如何ばかり從順であるかと云ふことは、一天萬乘の君と云へば人間で無く殆んど神の如く思ひ、君の御爲めとあれば喜び勇むで命を捧ぐると云ふのを見ても十分に了解が出來る、斯る氣風は物質上にのみ重きを置いた西洋諸國では決して見ることが出來ない現象である、殊に日本國は皇統連綿たる皇室を頂いたる國民であるから、昔から遺傳的に頭に刻まれた大和魂て、戰爭に勝つたのも詰り此氣風が國內に溢れて居るからである、然るに戰勝後西洋人が大和魂研究なぞと云ふて、一寸日本へ漫遊とか視察とかに來た位ゐては決して分かるものでない、其一例として笑ふ可き事柄がある、それは維新前の武士には拜領と云ふて君主の着古した衣服を貰ふことがある、これは臣下としては非常な名譽て、大變有難く感じたものである、然るに此事を聞いた或る西洋人は、元來人に物を與へるに自己の着古したる古着を呉れるとは、假令ひ臣下に對してとは云へ禮儀を缺いだ行ひであると大いに批難したが、西洋人としては又無理のないことてある、主君から拜領する其古着に、どれ程の有難味があると云ふことを想像するだけの腦力が彼等にはないのてある、其所が乃ち東西思想の異なる所である、日本の君臣の間柄は只君だから尊敬せねばならぬと云ふ理窟でなく、物質を全く離れたる忠義と云ふ志があつて、君の爲めには喜んで命を捨つると云ふ眞情が養はれて居るのである、これが即ち道徳的と云ふことを得る東洋の思想を顯はして居るのである。

今一つ夫婦と云ふ意義に就て述べて見やう、矢張り近頃は思想混亂の時期であるから、今の若い婦人中には根本を誤りやうな思想になつて居るものも屢々見受けらるゝ、第一男女同權なぞと云ふて妻と云ふ身分を忘れた樣な婦人は新教育を受けた者に多くある、人は男女と區別され、鳥類は雌と雄と別れ、獸類は牝牡と云ふて居る、然るに結婚したる男女を夫婦と稱へるのは人間ばかりである、扨て此夫婦と云ふ字を解釋すると、夫の字は既に一人前となり人を支配し得ると云ふ意味である、又婦は箒を手にすると云ふ意味である、然れば女も妻となりたる以上は夫に支配され、成る可く謙遜にして居らねばならぬ譯けてあるが、近頃の婦人は夫を尊敬すると云ふ念が餘程薄いやうに思ふ、男女同權などゝ唱へて見たり、人權の意味を取違へてこれを主張して見たりして居る所を見ては、自分共は夫婦と云ふ名稱を下すことは出來ない、出來合ひ者と稱する外はない、男女が同居して居る丈けては、神聖なる夫婦と云ふことは出來ない、西洋は個人主義である爲に、其家へ嫁するのでなく其人に嫁するのであつて、物質に重きを置いて、美しい精神界の交はり則ち獻身とか犧牲とか云ふの念がない、これは西洋の風習として致方がないが、斯かる短所を我國に持込まるゝ樣ては由々しき大事件である、故に婦人が新教育を受けるにも、自己の國體と遺傳的の氣風とを忘れず、人間として最も必要なる道徳的思想を根本として、品格あり高尚なる處世の法を執るやうに心懸けるが目下の急務である。

女子と體育

早稻田大學講師　安部磯雄

日本の男子に體育が必要なるよりは、一層日本の女子に體育が必要である、女子は人間を產むの人間であるから、體格の立派な人間を作らんとするには、先づ以て女子の體格から作つて來なくてはならぬと思ふ、女子の體格を立派にするには、第一に男子が女子に對する美の標準點を替へて行かねばならぬ、言ひ換れば美人と云ふ其見方を替へて行かなくてはならぬ、日本從來の美人と云ふは手足の纖い、色の青白いのを標準として居たのであるが、これからは肉が肥つて骨格の嚴丈な、壯健な容貌をして居る婦人を美人と云ふやうにならなくてはならぬ、第二に婦人と雖も器械體操をする必要があると思ふ、今日運動遊戲と云へば重に勝負事に屬して居て、運動しつゝ勝負を爭ふことが多いのであるが、此運動方法は身體全部の運動でなくて、只局部の運動に止り、右の手計りが甚だ善く太つて、左の手は纖いと云ふが如き片輪的體格を作ることになつて居るが、器械體操になると全部の身體を均一に働かすことが出來て、均一なる身體の發育を期することが出來る、婦人に器械體操せよと云ふことは餘り突飛な樣であるが、器械體操の種類は頗る多く、日本の中學あたりでする金棒のやうなものばかりではない、室內に備へ付けて置いて、獨りにても體操の出來るのが器械體操の効能であるから、野外の遊戲を嫌ふ處の日本婦人には、この室內に於ける器械體操が最も適當てあると思ふ、又日本の教育は餘り體格に重きを置かぬ結果、身體は弱くても學問さへ出來れば學校を卒業させるので、優等卒業生は多く色の青い弱〱したもので、到底卒業後社會の風波に耐へられぬものが多い、其所で私の考へでは、體格の弱いものは學業は何程出來ても落第さすと云ふことが必要かと思ふ、婦人が子も產れぬやうな體格になつて學校を卒業した處が、社會に出ては何等の役にも立たぬ人となつて仕舞ふ、而して弱い人を社會に突出すことは學校としても罪惡である、學問の目的は人を作るのであつて、身體が十分に作られて居らぬ人は、つまり人に出來て居ないのであるから、體格のよくないものを人並みに卒業さすは、間違つて居る教育の仕方と云はなければならぬ。

勇氣、忍耐、貞操

文學博士　村上專精

凡そ世の中には豫想外といふことが隨分澤山あるものです、他人の行てゐることが、いかにも樂さうに見えますが、さて、自分が愈〱その衝に當つて見ますると、なか〱難かしくてならぬことがあるものです、もう學校も卒業して、これからお嫁に行かうとなさる方は、その母樣や、又は知己の主婦の方が、家政を司つて行くのを見て、さほど難しいものとも、苦いものとも、面倒なものとも、厄介なものとも、煩いものとも、何とも思はず、寧ろ面白いもので、趣味のあるもので、樂なものゝやうに思つてゐる方が隨分あるやうでございます、が、さて、自分が一家の主婦となつて見ますると、思の外難しくて、面倒てならず、これが爲めには、病をさへ引き起すといふやうなことがあるものです、何が面倒で、難しいかと申せば、それは、唯家計の不如意と云ふことではないのです、舅姑などに對する仕向、下婢やなんかを使ふこと、それから親類の者に交際ふことなど、いろ〱と神經を勞はなければならぬ困難が起つて來るものです、て、すべて世の中の物事が終はると云ふことは、初まるといふことを意味してゐるものです、春の終りは夏の初まる時てありますし、夏の終りは秋の初まる時てありますし、秋の終りは冬の初まる時、冬の終りは春の初まる時、年の終りは年の初まる時と云つたやうなもので、物事は、終りと初めと同時てあります、それて、今、お若い御婦人方が學校なら學校を卒業なさるとすれば、即ち終つた時てすから、何かゞ又初まつて、一身上の變化がなくてはならぬ。引きつゞいて學問する方もありませうが、大方は又、お嫁に行くといふ一大變化がございませう、お嫁に行つて、家庭を作るか、或は又養子を迎へて家庭を作るにもせよ、まづ、婦人の身上としては、この結婚ほど紀念とすべき一大變化は他にはありません、そして、この一大變化に伴うて、上に述べたやうな、いろ〱と面倒なことや、難しいことや、憂いことや、辛いことが來るものですから、新家庭を作る若い婦人方は、第一に勇氣と云ふことがなくてはなりませぬ、勇氣と申しますと、何だか男にばかり必要であるものゝやうに思はれませうが、私の云ふ勇氣とは、何事にも進んでやると云ふ精神で、家事を取るに、すべて、はき〱として活潑にやることを云ふのです、この勇氣といふことがないと、どうしても、家庭難に打ち勝つことが出來ません、打ち勝つことが出來ませんと、とかく家庭は旨く圓滑、平和に行かぬもので、自分の意氣地のないことを世の中に發表し、又、婚家の名、實家の名をも汚すことがあるものです、それで、又この勇氣といふ精神を涵養するには、どうしても忍耐が必要です、物事を耐へ忍ぶといふことがあつて、初めて勇氣の精神を發揮することが出來るのです、それに、又終に貞操といふこと、此の勇氣、忍耐、貞操の三つがちやんと備はつて居れば、どんな家庭難でも凌いで、家庭の平和なることが得られるものであります、どうか、これから、新家庭を作る方は、この三つを家庭の要訓として一時もお忘れなることが得られるものであります。いろ〱と世の中の家庭の鬱々として春の如き得ないのは、主婦なるものが、多くは此の三つの婦德を缺いて居るからであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

霊華

一ノ瀬はつ子

（上）

千代子さんは級中第一の美人でした、それに女子特有の虚榮心は御容姿の優れるそれだけ人に立勝つて、金があつて地位のある人でなければ夫とするに足らぬ、榮華に一生を送るといふ事が婦人最大の幸福である、と云ふ平素の御持論であつたのです。

それでも御自分が、そんな地位あり財產ある家に嫁らつしやるだけの才と容貌とを具備して居て仰しやるんですから、誰も望外の望として笑ふものは一人もありません、また隨分立派な御縁談も數々あつたそうでございます。

其數多い縁談の中に御家人は素より御自分でもこれならばと思召すのが二つありました、一つは貴族院議員の某男爵、一つは某富豪の令息で學士で當時賣出しの錚々たる方だそうで、千代子さんは男爵夫人の榮冠も欲しいし、富も惜しいと云つたよう、餘程お迷ひなさつた御様子でしたが、つひに男爵とおきまりになりました。

其約婚が成立してからといふものは以前にまして一層の御得意、御化裝に御服裝に一段の華花をてらつて、金殿玉樓の榮華を夢みるようなお顔の中には樂しそうな、美しい色が充ち滿ちて、いそ〳〵として居らしたのです。

それから二月ばかりして千代子さんはフト學校を欠席なさる。

珍らしい、婦人會といはず教會と云はず、將又園遊會に茶話會に、凡そ人の集ふところといへば先づ第一に千代子さんの姿の見えぬ事はない、又學校に出て美しいと、ほめられるのが何より御得意で一日として欠席なさつた事はなかつたのに、今日はまたなぜだろうと私は不思議に怪しみました、

「あの何だわ、大方、あれでせうよ

と靜江さんが仰しやるから

「あれつて何？

「あのそれ御婚禮の準備でせうよ

「オヤそんなに急なの、來年の三月とか云つてらしたのに

「えゝ初はね、そんな積だつたんでせう、だけども貴女、男爵の方では一日も早いがいゝつて……學校なんざ結婚してからでも行けるから是非急につて仰しやるんでせう

「まあ然なの、それにしても、餘り突然だわ

「ホ、、、そんなに怪しまなくてもいゝ事よ、まあ何にしても御目出度わと、それよりそれと教室の内では、とり〴〵の噂でありました。

成程然かもしれない、それで欠席なさつたのだろうと私は別に怪しみもしないで、そのまゝ二日と經ち三日と過しても一向に婚禮の噂を耳にしません、あれ程有名な方の事だから何とか話がありそうなものだと今度は眞に不思議に思はねてもありません。

（下）

晝食後の四十分、私共は例に依つて例の如く四方山の話が轉じてまた例の千代子さんの噂がはじまりました、すると突然戸を開けて歸つて來た一人が

「あの、一寸〳〵千代子さんは大變よ

と仰山らしくいふので

「えゝ、どうかなさつたの？

と一せいに振向く

「あのね、如何なさつたんだか知らないけど大變なお負傷なんですつて、左の眼がいけなくなつたんですつて

「エーツ、それで欠席なの？

「然よ貴女、あの御自慢の顔を、御可哀想だわねえ

「オヤまあ、眞個なの

と眉をひそめて、さすがに同情の聲がわく

「ぢや無論男爵の方は破談ね

「然だわ、あの顔あればこその縁談――それがそんなになつちや仕方がないわ

「義理でも此方から引退なくちやならないわねえ

「えゝ然よ

「お可哀想に、多年あこがれた望も夢に歸したんだわ

「ほんとうに、嘸失望なさつてるでせうねえ

ツンとお濟しになつた其態度が平素は何となう、嫌に思つた私も、かうなれば妙にお可哀想で眞に氣の毒だと思ひました、で私は何とか慰めて上げたいとの同情の思が、むか〳〵と湧き出て、學校の歸途、宅にも寄らず、その足で千代子さんの御宅を訪れました。

氣の故でもありませうか、お庭から玄關から凡て門の内はシンとして如何にも哀はれに淋しそうです、私は靜かに案内を乞ふて女中に導かれて千代子さんの御室に通りました。

千代子さんは繃帶をなさつたまゝ、蒼白い顔をして褥の上に起上つて美しい右の眼に露をふくんで、じッと私を見やり何とも云へぬ――これ迄、つひぞ見た事のない、人なつこい御様子で――

「よくいらして下さつたわねえ

とお聲までが眞から嬉しい哀はれな情を含んで居るのです、私は千代子さんの、この優しい態度、……心から優しい聲を聞きまして、何とはしれず涙ぐみました。

「貴女大變な御負傷でしたつてねえ、ほんとに何と申し上げていゝやら……

私は眞に言葉がありません、默つて御容子を見て居ると

「いゝえ、道子さん、私はこれて、はじめて悟りました、一方の眼を失くしても私の精神は救はれたのです、私は今までの考を、すつくり改めました

と生れ更つた優しい態度で仰しやるんでせう、私はそのいぢらしさが哀はれて思はず涙をこぼしました。

眞に千代子さんの精神は救はれたのです、男爵夫人の榮冠と、美しいお眼とを犠牲にしても千代子さんは眞に幸福の人となられました。

あゝ天の心は深遠である、一片の落花も決して無意味ではありません。（をはり）

▲男子に對する希望五個條

右次號の紙上にて發表致し候

▲祝愛國婦人會總會

諸共にいさ祝はましまこゝろの花さき匂ふ今日のまとゐを　大阪　富永　才子

この國の大和撫子とし〴〵に咲きまさるこそ愛たかりけれ　埼玉　森田　竹子

盛なる今日のまとゐの力もてなし得ぬ事はあらしとそ思ふ　長野　高橋　清子

年毎に咲きさふ花のけふこゝに匂ひあふこそ樂しかりける　岡山　武田須磨子

靑山にけふたちならふ姫小松いく千代かけて榮え行くらん　東京　岡田　寿子

國おもふ誠あふれし人々の逢ひあふ今日のまとゐかくはし　鎌倉　中隈富士子

見るからにその眞心の現はれて今日の團欒のかくはしき哉　大阪　十合貴美子

御恵みの露に霑ふこのまとゐいや榮え行くためしなるらん　愛知　山内　經子

をみならか御國を思ふ眞心の程こそ見ゆれ今日のまとゐに　堺　全田つるゑ

年毎におほつとひしてこの國を愛るをみなの增すそ嬉しき　長崎　葛原　梅香

國のため誠をつくす人々の今日のまとゐそ目出たかりける　山形　阿部さゐ子

年々に色香そまさるこのまとゐいよゝ御國の花と咲くらん　津　小島　駒子

陸奥もつくしのはての人々もつとへて祝ふ今日のたのしさ　福島　伊藤　靜子

集ひして國に盡くせる手な末のをみなの心今日かくはしき　青森　吉田　安子

眞心のほまれかさりて人々のつとひて祝ふ今日のめてたさ　靜岡　靑木　絹子

數ならぬわか身も今日は國のため盡すまとゐに出る嬉しさ　茨城　綿引　馨子

生茂けるやまとしま根の撫子を今日靑山に植えて見るかな　三重　西山ひさゑ

藻顕草めくみの露にいろそひて都のはなも咲きかそりけり　三重　莊司　稚子

たをやめも皇國をおもふ眞心はますら健男に劣るへきやは　茨城　綿引　紅子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

育児のしをり（上編）

ドクトル メヂチーネ　長井岩雄

第三　小兒居室の事

何人も一樣に實行は出來がたきも、若し能ふべくんば小兒の居室はなるべく暖かなる南向きの部屋をよしとす、世の人新たに住宅を建築せらるゝならば、必ず一室小兒の部屋、即ち育兒室として最初より設計せられん事を企望す、さて其部屋は西洋室、或は和洋折衷を良とす、如何となれば純粹の日本間は兎角隙間の風通り易く、また暖室裝置に就ても不便の處あり、依て雨戸とがらす戸と二重にすることは、勿論また天井裏に鼠の這入らぬやう最初より注意し、その天井も普通の板張よりは張天井を良とす、之れ塵の落ちる憂ひもなく、又時々張替ゆるに便利なればなり、窓も注意して能く太陽の光線の通ずるやうにすべし、若し風強く塵埃多き日は、外出せざるも室內にありて遊戲し、太陽の光線に觸れ得るやうすること尤も肝要なり。

其外尤も單一なる花鳥草木などの繪を壁に懸け、又は玩具を備へ置きて子供の娯樂を補くるはまた必要なり、しかし子供の恐るべき圖畫、並に危險の物品は一切育兒室に入る可からず。

幸にして我日本は寒中といへども日向にあれば別に暖爐火鉢等の必要なく、實に太陽は自然の「ストーブ」にして、衞生上吾人の爲には無限の恩惠なりと云ふべし、小兒滿一年頃までは、外氣に堪抗するの勢力弱くして尤も病氣に罹り易きがゆゑに、居室の注意も從て必要なり、されば乳兒期中は此部屋にて起居せしめ、次の子出來しときは又順送りに此部屋にて保育する事とすれば、實に一擧兩全と云ふべし、さて乳兒の時大患に罹れば、遂に發育を害する而已ならず、早く其病氣慢性となり、成長の後までも引しらふことあるは決して珍らしからず、殊に乳兒は感冒より氣管支加答兒となり、再三反覆すれば遂に習慣性となり、最後に喘息に變じて終生全治せざる事あり、されば小兒はなるべく病氣に罹らぬ樣日常保護せざる可らず、若し病氣に罹りし時は、第一病室完全ならざれば、吸入も濕布繃帶も入浴療法も充分に施し難し、因て病氣を豫防するにも相當の部屋を要し、治療するにも亦部屋の要用なることは上陳の理由に由るなり。

▲附言●●　近來日本に行はるる木炭ストーブは、小兒の居室には感心せず、若し此暖爐を使用せんとするときは、必ず煙突を付けて瓦斯を室外に導く可し、然らざれば炭酸瓦斯室內に籠りて衞生上有害なり、まゝ大人も頭痛嘔吐を覺へ、甚しきは炭酸中毒の爲め卒倒する事あり、若し煙突を付け難き場合には、能くおこしたる火をストーブに入る可し、また火鉢も同樣必ず充分おこりたる火を入る可し、その外ストーブの上にお湯を入れ、火鉢に鐵瓶を掛けて蒸氣を發生せしむる事は尤も肝要なれば、決して忘る可らず、之れ炭酸瓦斯を中和せんが爲なり。

廿世紀的の新奥樣

高島米峰

婦人に對しては、甚だ申上げ悪いことですが、御婦人方の多數は、これを男子に比べますと、餘程決斷力が鈍いやうであります、善く言へば、注意が周到で、微細の點にまで氣がつくから、自然決斷に時を要するといふのかも知れませぬが、兎に角、表面に現はれたところだけで申しますと、御婦人方は、男子よりは、決斷力が鈍いやうに見えるのであります、ですから、何か一事件が起りますると、かうしやうか、あゝしやうか、イヤ、かうでもない、あゝでもない、左思右考、躊躇逡巡、決めやうとしては止め、決めやうとしては止め、又決めやうとしては止め、いよ〳〵今度こそは、確に定めたと言ふかと思へば、その舌の根の乾かぬ間に、早くも既に、これを取消して仕舞ふなど、一向珍らしくないやうです。

今更らしく、決斷力の功能書を、述べたてるにも及びますまいが、凡そ男子でも、御婦人でも、各その爲さねばならぬ務があります、その務を實際に行つて參りまする時に、決斷力が鈍かつたら、自分が損をするのは兎も角もと致しましても他人に迷惑をかけることが、尠くないのであります、極めて卑近な例を擧げますると、或時、私共の懇意に致して居ります小間物屋の番頭さんが申ますには、

「イヤ、もう、とても堪りませぬ、商は、アキナヒ（厭きない）だとか申して居りまするし、これが自分の仕事だと考へ直しますからこそ、やツて參りますものゝ、時には、心からイヤになることもございます。男のお客なら、こちらの方が、お似合ひ遊ばすとか、お爲めによろしうございますとか、申しますれは、ズン〳〵片がつきますが、御婦人方と來ましては、僅か二錢か三錢の、簪一本お求めになりますにも、まづ五六十錢位のところまで、順々に御覽になつて、あれだ、これだ、高い、安い、ザヤこツちにしやう、イヤ待つてお呉れ、こツちの方がどうかしら、……チヨイト、そツちの棚にあるのを見せて下さいな、……アラ小僧さん、それぢやなくツてよ、……イヽエ、その御隣りのよ、オホヽヽヽ、イヤな小僧さんネエ……、など、漸くお話が纏まツて、代金はと申すと、五圓か拾圓の札をお出しになる、二錢や三錢の品を買ツて頂いて、五圓や拾圓の札を出されましては、まるで、只で兩替をして上げるやうなものです、兩替屋へ入らツしやると、拾圓で、三錢位は、キリ賃を取られますから、それよりは、元結かピンでも買つて、お釣りを取る方が、都合がよいといふお考でしやうが、こちらの方は、大變な迷惑でございます、それもマアよいと致しまして、お釣を渡して、送り出しますと、一二時間たツて、ヒヨツクリやツてお出でになり、「さツきネ、取ツていツたンですが、何だか、母が面白くないツて申しますから、あツちのと取り替へて下さいナ」などゝいふことは、殆ど當前になつて居りますので、これては、第一商賣にもなりませず、又、とても、長生きは出來なからうなど、時々は、朋輩同志、愚痴を溢すこともございますのて、……ヘイ。」

成程、聞いて見ますれば、誠に無理のないことであります、たゞこの一事でも、御婦人の決斷力の鈍いのが、どんなに、人に迷惑をかけて居るであらうかといふことが、わかりましやう、たゞ、小間物屋ばかりではありますまい、呉服屋でも、おもちや屋でも、文房具屋でも、男子の買物と違つて、御婦人方のお買物は、何時も、商人に、迷惑を感じさせて、お出てになるのでありましやう、たゞ商人が、表面、愛嬌やお世辭を振りまいて居りますから、御婦人方は、そういふことに、お氣がつかないのであらうと思ひます、全體、公平に考へますれば、賣るものがあつてこそ、買ふものが便利を得るのでありまするし、買ふものがあつてこそ、賣るものが利益を得らるゝのでありまして、若し、買ふものが無かつたら、賣るものが困りましやう、賣るものが無かつたら、買ふものが困りましやう、つまり、賣るものと買ふもの、即ち商人とお客樣といふものは、對等なもので、お客樣が尊くて、商人が卑しいといふ道理は、無い筈であります、理想的に申しますれば、商人が、買つて貰つて「有りがたう存じます」と言つたら、お客の方では、賣つて貰つて「有がたう存じます」位は、言はなければならない譯ではありますまいか、賣るものと、買ふものとの關係は、こういふ工合でありますから、御婦人方が、お客樣として、物をお買になります時にも、十分、相手の立場に同情を寄せて、あまり、商人に迷惑の懸らないやうにしておやりなすつたら、よくはないかと考へます、申上げるまでもなく、相手を見下したからとて、自分がエラクなる譯ではありませぬ、却つて、立派な御婦人方が、下々のものに、丁寧な言葉遣をなさつて、身を遜つていらつしやるのは、ドンなにか奥ゆかしくて、立派でしやう、私の知人の中にも、五十圓か六十圓の、はした月給を取て居る者の細君などに、兎角、高慢な、尊大な、そして思ひやりのないのがありますが、誠に見悪いものであります。

と申しましても、お買物をなさる時に、商人の出しました品を、檢めもなさらずに、そのまゝ買つてお歸りになるやうでも困ります、品物の撰擇は、買ふ人の自由でありますから、疵の有無や、質の善悪位は、お調べにならなくてはいけませぬ、たゞ、何でも、商人の言ふなり次第に、お買ひになるやうな奥樣なら、そのお臺所から、一家破滅の禍が、生ずるかも知れませぬ。

つまり、お話し致しました趣意を、取り纏めますれば、凡そ買物をするといふ時には、まづ、どういふものを、何程位で買はうといふ目的を定め、一旦、その買物の目的を定めて出たからには、商人の迷惑とならない範圍內で、これを選擇し、代金を拂つて買ひ取つた以上は、商人の方に不正なことがなかつたら、あとで取替へるとか戻すとかいふ樣なとのない奥樣が廿世紀的の新奥樣であります。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小供くらぬ

藤棚會議

江戸　靜川

極樂寺の山門前には此邊に名高い藤棚があります、浪うつやうな紫の房が垂れて地につく季節が來ると、花見がてらに參詣に出掛くるもの引きもきらず、常は寥しい境内に掛茶屋が出來て、「名物黍團子」「五もく壽司」などの旗が、深い綠の若葉の蔭にヒラめく、番手拭の姐さんが兜風呂の前に蹲踞むで、煤けた火吹竹を口に頰を膨らして、一心に火をおこして居る、と前の赤毛布のかゝッた床几にはお下髮に立帶の孃さん、海軍服の坊ッちやんが、お母樣を中に圍むで、馬場先門やア和田倉門と、可愛らしい聲で唱ッて居る、若葉の茂みのなかには、銀の鈴を振るやうな小禽の聲、まことに極樂寺と云ふ號に反かぬ、こゝは平和に樂しい境内であります。

其の藤棚の上に今朝から集まッた蜂の一群があります、數は千だか、萬だか、到底算え盡くすことは出來ませんが、澤山の琴を列らべて、廣い書院に靜かに其の空音でも聞くやうな、何んとも譬へることの出來ない微妙の啼き聲に依ッて見ましても、百や千の少ない數でないと云ふことは知れます。

この微妙の啼き聲、これを假りに蜂の樂隊が奏する音樂として置きます、樂隊は今何にか非常に御慶度い、嬉しいことがあると見えまして、引ッきりなしにブーン〳〵と囃し立てゝ居ります、するとこの奏樂のうちに徐かに群を放れて、一段高い山門の屋根の上に二三の從者を伴れてあがッた一匹の蜂があります、これはこの蜂の群の女王で、身には美しい衣を着けて居ります。

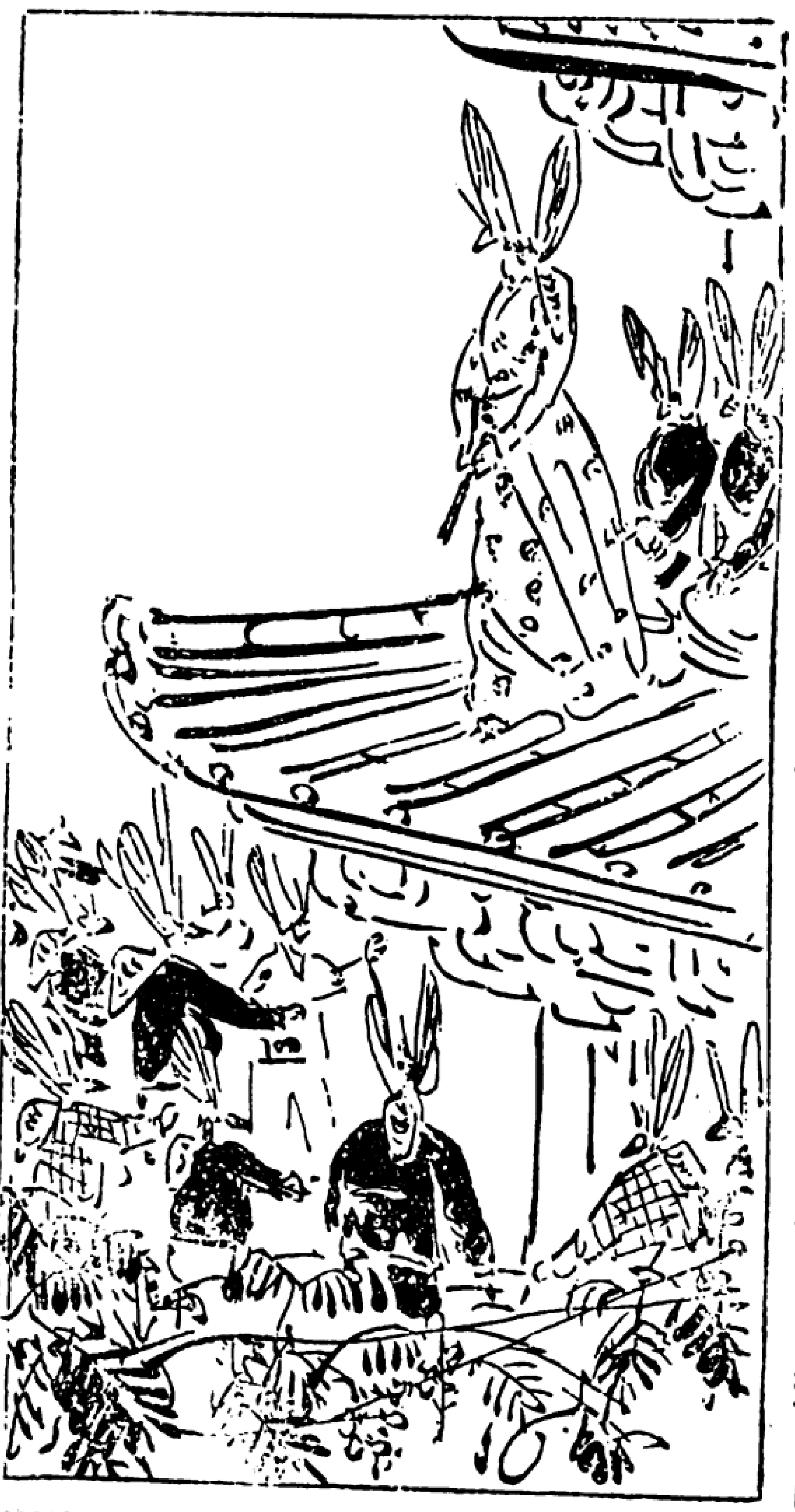
女王はズッと軒頭に進み出て

「今日は能く早くから集ッてお呉れて私は非常に嬉しく思ふ、まだ不參の蜂もあるであらうけれど、夫れを待ッて居ては無益に時間が費へるから、唯今から會を開くことにします。」

と云ッて元の席に復ると、一群のなかの大將とも見える蜂が前に進み出て

「一同を代表して、私より過ぐる一年間の事業の御報告をいたします。」

と云ッて、流暢な、淀みのない、透き通るやうな佳い聲で、この一群れの蜂が昨年の春から今年の春に到たる、一ケ年間になしたる事業の大略を陳べるのでありますが、冬籠りの用意に蜜を貯へるべく



花の露を吸ッて居るところを、惡戲な坊ッちやんに追はれたり、なかには叩き殺された可哀想なのもあッたことやら、折角築き上げたお城を竹竿で突ッつき毀されたことやら、千辛萬苦の艱難をした時の話しをいたします時には、一同首を俛れて、當時の悲慘な狀態を今眼の前に見るやうな氣がして、云ふに云はれぬ淋しい感に打たれ、肅然として身動き羽搏きをするものもない、中には夫に先立たれ子に別れて、密かに嘘啼く憐れに可憫さうな女蜂もありましたが、軈て話が進みまして

「しかし、この千辛萬苦をした結果は、豫定の收穫があッて、冬籠りに何んの差支へもなく、少しの不自由をも感ぜず、安樂にこの年を越えることの出來たのは、お互ひに働き甲斐のある、誠に喜ばしいことであります。」

と聲に力を入れて勇ましい動作で語り出しました時には、今まで肅然として居た一座が勵搖めき立ッて、俄かに活氣を呈へてまゐりました、この報告が濟みますと、また女王が代ッて立ちまして

「今年もまた昨年同樣、否な昨年よりも一層澤山の收穫を得るやう、勉め勵まれむことを希望みます、就いてはこの一年間の勞を慰むるためこれから園遊會を開くことにします。」

と云ッて、それから藤棚の上で園遊會が開らかれました、餘興には戰爭ごッこがありましたが、人間の眞實の戰爭にも、大軍が動く時を形容して、蜂起だの、蜂群だのと云ふくらゐですから、其の進退駈引きの巧みなことは、實に目覺むるばかりでありました、それが濟むと、當日來賓として聘ばれた胡蝶が、得意の舞を舞ふて大喝采を博し、これで此會の終りを告げました。

蜂は能く働く動物であつて、自分の力で自分の糧食を貯へ、決して他のものを奪ッたり、遊むで居て食べやうなどゝ云ふことはしません、さうして働く時には能く働いて、遊ぶ時には澤山の友と一所に遊むで、樂みを他に頒けることを知ッて居ります。

藤棚の上には今この活動家の蜂が居りますが、藤棚の下に綾羅しい衣裳を着て、花を見て遊むで居る人のなかには、蜂に對して恥かしい人がありませう、必然あるに違ひありませむ。

（をはり）

東西名婦傳

ハウ女史（上）

米國現代の女詩人

服部雨村

アメリカは金錢と勞働の國だとは能く聞く事であるが決して徹頭徹尾物質主義の國でない。作家にはスケッチ、ブックで有名なアービング、怪談めいた短篇で有名なポー、及びスカーレット、レターの作者ホーソンの如きがあるし、批評家にはウヰンチエスター、マビーの二大家がある、詩人としてはロングフエロー、エマルソンの外に現存して居る女詩人に、ジユリア、ワールド、ハウと云ふのがある、女史は今年八十八歳の高齢で、啻に詩人として有名なるのみならず、公人として盛に社會的に活動した人、又自ら良妻賢母たるのみならず多くの良妻と賢母とを育て上げた。

女史の父はサミユエル、ラッシユ、ワルドと云つて、女史は一八一九年の五月廿七日、ニユーヨークのバウリング、グリーンの父母の家に呱々の聲を擧げた、二十四歳の時ボストンにて相識りしサミユエル、グリッドレイ、ハウ博士の許に嫁して四女一男を擧げた、歐州へは前後五度も旅行をしたが、其時にも以太利漫遊の影響などの見えるのがある。

女史の平生は、非常に親切で快活で、人の應待の巧な人であるが時として夢を見るやうな、物忘れしたやうな恍惚する事がある、開口一番、面白い氣輕な事を云つて人を笑はせておいて、さて二の句が暫く出ずして主客共に手持無沙汰であつたりする事は度々あつた、其初期の時には多く心の不安の影が仄の見えて居た、夫が偶然した事より、公共的事業に關係するに至つて俄然と一變して、態度も沈着不動、眉宇の間に云ひ知れぬ輝きが見えて、以後盛に公共的事業に盡瘁するに至つたのである。

此の偶然の事と云ふのは、或日の事、ハウ女史は一人市中を散歩してゐた折、不圖婦人選擧運動の集會場の前を通り掛つたのであつたが、會員の一人に切りに入場を勸られたので、初めは嫌々ながら傍聽席に這入つて見た、所が既に其親友なる、ガリソン、フイリツプス、ジエームス、フリーマン、クラークの如き知名の士も加はつてゐた上に、會衆の態度が如何にも眞面目で、熱誠に富んでゐるのを見て、少からず心を動かされた折柄、是非女史にも演説をと勸められた、女史は座談には馴れて居たが又平生より何時かの用意にと、兼てより公衆の前の演説、討論の方則など多少は研究してみた事もあつたので、一諾して一場の演説を試みた、「私は皆樣と行動を共に致します、此の終始變らぬ皆樣の友誼に對しても私は脊を向ける事は出來ないのです」といふ樣な事を述べた、之を手初めに色々の婦人會にも出席して社會的の活動に身を投ずるに至つたが、遂にニユー、オルレアンスの世界婦人會の會頭となり、組織統率の技柄をも現はした。

武田須[illegible]子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「日本家庭百科事彙」に就いて

東京神田富山房發行

近時各女學校卒業生の學力に就いて大分喧しい議論がある。或者は女子の能力を疑ひ、或者は教育者の責任を問ひ、又或者は教育制度の不完全を稱ふるなど議論百出の有樣であるが、要するに女學校卒業者の學力が、一人前の主婦として働くには猶不足であるといふ事は、論者の意見殆ど一致して居る樣である。勿論此學力不足の責任が、被教育者たる女子にのみ歸すべきものであるか、將又教育者たる學校に歸すべきものであるかは、頗かに斷定し難い問題であるが、元來女子教育なるものは、我邦ではまだ〳〵幼稚の時代にあるので、教育機關もまだ十分に備つて居ないのみならず、父兄の腦裡にも從來の惡習慣が染込んで居て女子には大した學問は要らない、一通り讀み書きさへ出來ればそれで十分だ、女學校など入れて六ケしい事を學ばせる必要はない、反つて生意氣になるばかりであるが、時勢が時勢だから、嫁入道具として卒業證書を取らせるのだと云つて居る者のある事は、讀者も承知の事だらうと思ふ。されば此責任たる、畢竟女子に對する家庭教育の不完全に起因して居るので、必ずしも被教育者たる女子をのみ直ちに責むべきものでは無いのだ。試みに今日の家庭の狀態を見ても其一斑を窺ふ事が出來る。まづ上流社會で、家庭教育の必要を感じて居る家庭でも、女子に授ける學問は兎角枝葉に流れて、往々處世智育に緣の遠い詩歌音曲茶の湯生花などが大部分を占めて居るでは無いか。其て此女子が學校に出る樣になつても、矢張枝葉の學問の方に趣味を感じて、其以外の大切の學問の方には兎角氣が乘らないといふ樣な事は往々目擊する所で、しかも修業期が短くて婚期が早いのであるから、自然主婦となつても學力を疑はれる樣になるのだ。中流以下の家庭にあつては推して知るべしである。故に吾人の見る所を以てすると、女學校卒業者の學力不足は、敢て甚しく其當人を咎める譯には行かず、又學校を責める道理もないので、寧ろ家庭に於ける從來の惡習慣と如上の事情とによると謂つても差支なからうと思ふ。であるから、此女子教育の効果を顯著にし卒業後の學力を十分ならしめるには、學校よりも、まづ家庭の狀態を一變しなければ到底不可能である。即ち修業中は勿論、卒業後、結婚後とも常に書籍に親んで修業しなければならぬのは當然である。彼のカーライルも嘗て書籍の集りたるは則ち眞正の大學校なりと言つたが、實に卒業後も絕えず書籍に親んだならば、必しも修業期の短いのも結婚期の早いのも憂ふる必要はないので、一生涯學校に居ながら家政を調理して行く事が出來ると些も變らないのである。西洋諸國の各家庭で書籍を飾附けたり、如何な家にも百科事彙を備附けて置くといふのはこれから來たので、彼等が常識に富んで居るのは全く此結果である。本邦教育の大家芳賀博士下田學士は歐洲留學中此狀況を見て殊に深く感じ、如何にしても本邦婦人の此大缺點を補はんとして、歸朝以來五年かゝつて見出しの樣な書を編纂された事は、全國新聞に筆を揃へて賞讚したので、讀者は既に熟知して居られる事と思ふ。これを一見すれば、家庭上の事は勿論、社會一般の事項、六ケしい學科に至る迄一も遺す所なく記して、内容の豐富で、插畫、地圖の美麗な事、確に獨逸式である。實に知識の寶庫とか家庭の良友とか學校以外の教師とか社會から一般に稱せられて居るのも決して無理でないと思ふ。今回第一回の申込部數七万餘を配布し終つたので、更に最終の特賣を始めて、愛國婦人會員には特に割引するといふから、諸君の家庭に此際一本を備附けられたらばどうであろふか。

一森式 座椅子 特許第九〇一〇號

一箇にして椅子となり寢臺となり疊込めば携帶に便なり老人產婦各種病人特に喘息患者に適す

現品は東京博覽會第二號館、婦人博覽會、東京日々新聞社前及び東京並に大阪の三越呉服店に陳列す

說明書及び定價表は御申越次第贈呈す

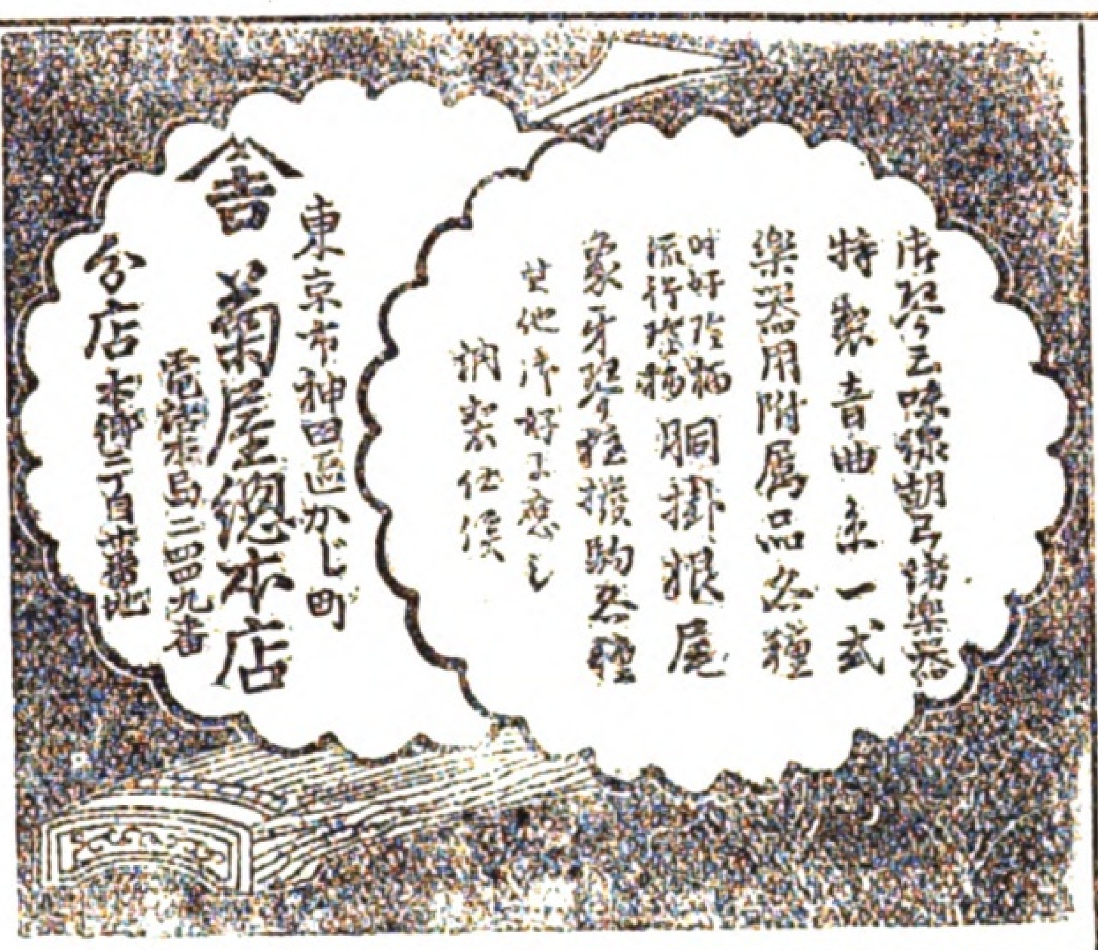
類似品有り候に付特許第九〇一〇號御記憶被下度候

製造發賣所

東京市芝區下高輪町二十一番地（東禪寺電車停留所前）

樂民堂

電話新橋三〇六五



東京勸業博覽會第一號館第十四部出品
東京勸業博覽會第三號館出品
及不忍池畔雪見橋際販賣店新設仕候

神田赤のまん隣

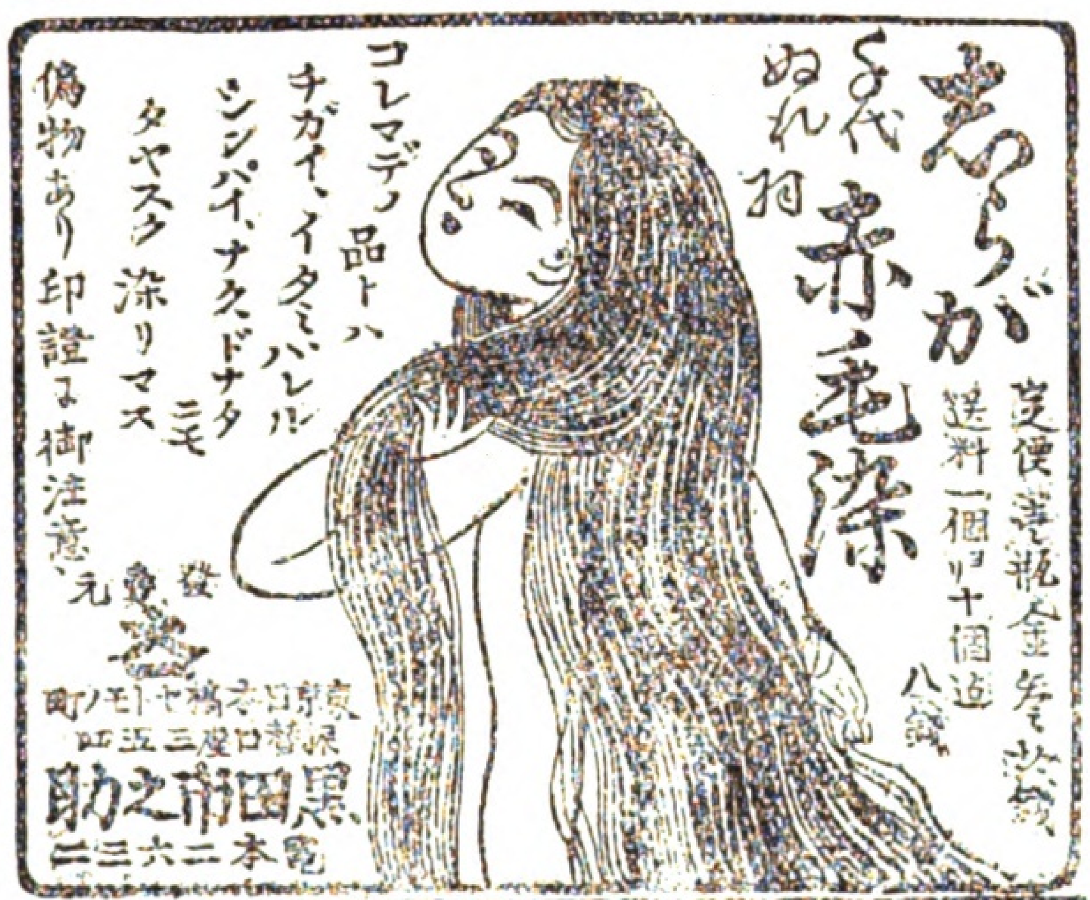
本店 神田小川町通り（電話本局二八五三）
出店 新橋博品館階上 及赤坂田町五丁目支店
婦人博覽會內 横濱出張店横濱館

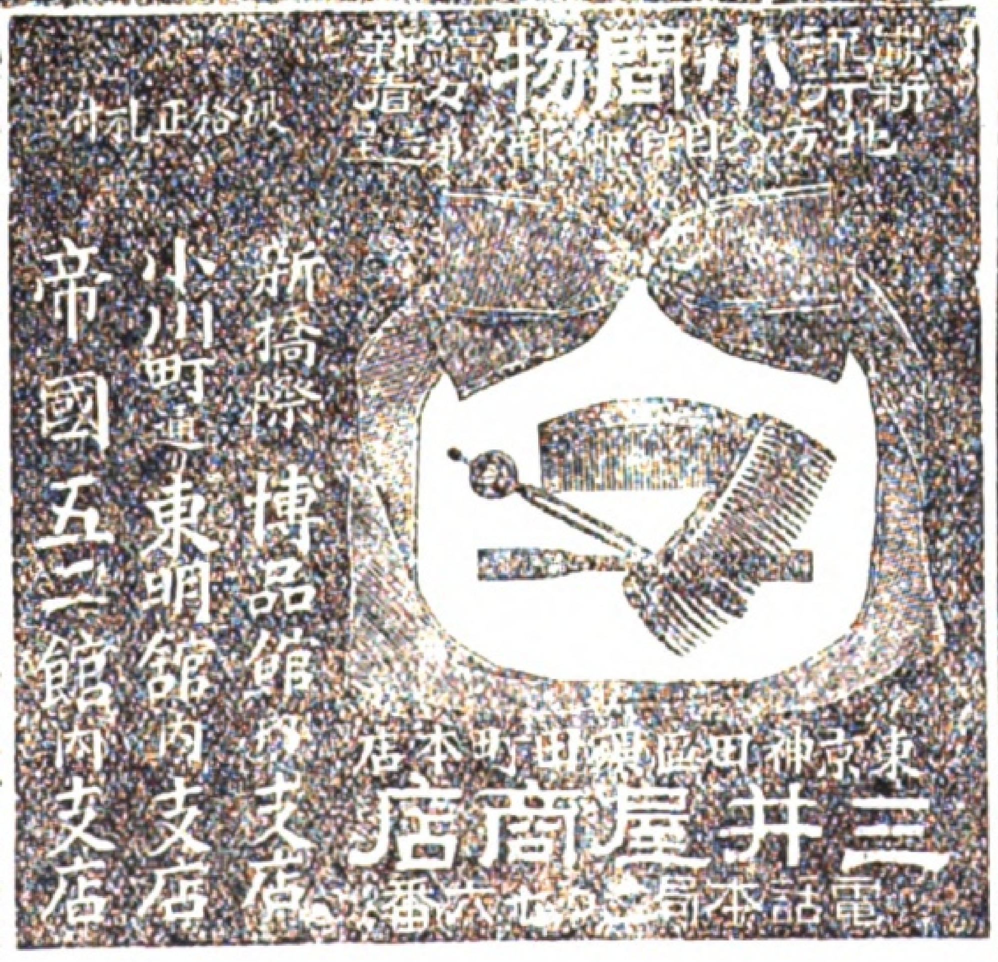
S
和服も縫へる
家庭向婦人用
シンガーミシン
廉價 月賦大販賣
更に特別減價 即金賣
無報酬出張教授（東京及横濱の御婦人のため）
（他地方及京濱の御婦人にしてシンガーミシン裁縫女學院へ入學の方には同院の束修及月謝を弊社にて負擔す）
▲明細書 御申越次第無代送呈

申込〆切期日近し

シンガー裁縫機械會社
京橋區銀座通三丁目
電話新橋三四六六
東京支店

特撰ミシンの種類 十三種
金四拾八圓より百四十三圓迄
▲申込金 參圓
▲月賦額 五圓均一





東京勸業博覽會第一號館小間物組合出品部出品及婦人博覽會第二號館出品即賣

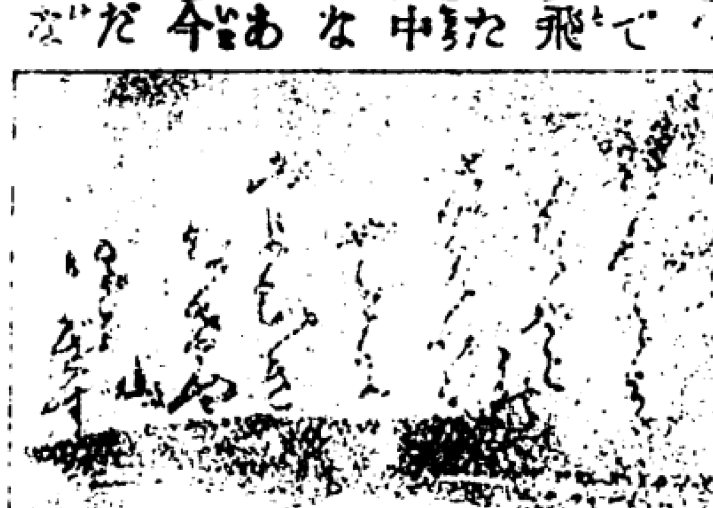
登錄商標
プレスト あらひ粉
●色白く肌を滑らかにす
定價 袋入三錢 五錢 大袋入十錢 小罐入七錢 大罐入十五錢 特別大罐壹圓
本舖 東京牛込 山本玉川堂

短文

▲蜴の尾（一等）　京都　山本收子

梅雨の頃にめづらしい晴天やから、庭を散歩しやうとぶら〳〵來たら、女中が草ぬきしてたから、私も手傳てあげやうと云ひながらふと足元を見た時の氣持のわるさ、蜴の尾のみがぴんぴん刎廻つてるので思はず飛びのいたら、女中は笑ひながら、あれなら今切れたのだす、蜴なんぼ切れたつて何とも無いのだす、とは何たる情ない言葉であらう、氣味が惡いからそこ〳〵に元へと引かへした。

▲選者曰　ホンマにえゝ出來だすわ



▲大凧（二等）　鎌倉　中隈富士子

鎭守社前の道路工事あり、村の者數十人、其中に七十ばかりなる老翁頭をエイヤとふり上げざま「ヤレ〳〵早くかたつけてな、お天道樣が御庭にござる迄に終へて凧上げるだ」と西に傾く綠の峯を見上げてほゝ笑みたる無邪氣さ、やがて木立の彩うすれし頃、すみ渡れる月の空高く、疊十枚程とおぼしき大凧晴夜の星のごと、數限りもなく勇ましう唸り立てゝ板戸とぢたる後、猶久しう聞えたり。

▲選者曰　鏡花の風流線にあるべき趣樣

▲鏡ヶ浦（三等）　於北條　水野淑子

起き出てゝまづ欄干による、海の景色をみんとてなり、近き鷹ノ島も遠き沖の島と薄霧に包まれしが如く打ちけぶれる樣、昨夜月に眺めし夫とは全く景色かはれど又なつかしき風情あり、去にてもいと深き朝靄よとみるうちに舟三つ岸によりぬ、苫をふきて人はみな蓑を着たり、へゝア雨かと祖父君は目鏡出しつゝ、妾は幾度か目を拭きぬ。

▲選者曰　流石にうまい

▲時鳥　東京　望月米子

さらぬだに物淋しき山家、おやみなく降る梅雨の軒端を傳ふ音に、ひとしほ淋しさは勝りける、夜もいと更けて、病の床にふし給ひぬる母上は、時々苦るしき喘をもらし給ひぬ、夜更け看護につかれてうと〳〵とまどろめば、貳聲、三聲、あはれ血に啼く時鳥。

▲首夏の夜　京都　磯谷澪子

咲き誇りし花も名殘なう散り果てゝ、吾が窓の新竹を渡る風靜かに、四方の青葉蔭の清々しさ又はくいはん方なし、夜に入りては片田舎の外行く人も稀に、小田に鳴く蛙の聲々いと高く、垣根の卯の花は時ならぬ雪かとぞ見ろ、軒端の小簾捲上げて三日月を薄雲の隙間に眺め、初時鳥の一聲聞かまく待つ程に、何時しか夜も更行きて、折々ひゞく風鈴の音かすかに耳に響すもいと心にくし。

▲城の跡　青森　吉田安子

老杉のこんもりと茂れるお城の跡を、ありし昔を忍ぶともなくそゞろ歩きぬ、お屋敷の跡、代官所の跡と廻り廻りて兵留ともおぼしき廣き庭に出てぬ、あゝ去にし昔の榮華の夢の、空しくも散る松の花に荒れ果てし事よ、ゆゝしき武夫の轟しつる響の御失せてあらんを、只だ時鳥のみ己れあく迄ても名のる其の音いたまし。

▲我子よ　東京　五藤敏子

我がいとし子よ、運命の神が捧ぐと云ふなる荊えしとて、何悲むべき、よしや又、そが與ふと云ふなる、光榮の冠えしとて、何喜ぶ可き、思へ子よ、得はやがて失なり、失はまた得なり、しかし、只己れの凡を盡して、日一日の恨なからんには。

大口鯛二氏選　ほとゝぎす

天　濱松　萩原さだ子

客人は都の友ぞわか宿にてよひきなけや山ほとゝきす

▲評曰　此の心すなはち山海の珍味にまさるあるじまうけならん

地　東京　渡邊仙子

ますらをのみたま祭れる靖國の神垣たかくほとゝきす

▲評曰　勅祭すでにはてゝ綠樹陰暗き社頭げに杜鵑の啼くべきところなり

人　岡山　石井俊子

卯の花のさける垣根に立寄れは夕月あはくほとゝきすなく

▲評曰　常套を脱せざれどまたすてがたきところあり

○佳調

有明の月影すこき老杉の梢にたかくなくほとゝきす　石川　酒井節子
聞くたひに鳴く音ゆかしく鳴くたひに又一聲とまつほとゝきす　栃木　岩根都奈子
このめにて友と語らふ折しもあれもてなしかほになくほとゝきす　愛知　[illegible]とよ子
雨晴れし青葉の山の夕月に一聲なきて行く時鳥　岡山　武田須磨子
梅雨のなこりの雲間もる月に空はれ渡る山ほとゝきす　愛知　市川はな子
曉にまた鳴く聞けは時鳥夢ならさりき夜半の一聲　東京　山口理勢子
ほとゝきす音つれ渡る夕月夜卯の花さけるかき根床しき　岡山　山崎露子
夕月夜青葉の影にたゝすめは初音もらしぬやま時鳥　愛知　木俣六女子
時鳥なく一聲にしのはれて去年の今夜の君そ戀しき　青森　大橋八佐子
おもひかけす一聲きゝぬほとゝきすのまよひの夕暮の空　横濱　植野秀子
月あはく殘る古城のまつはやし啼くほとゝきす聲かすかなり　京都　渡邊盟子
ふる里の母やいかにとみる月に初ほとゝきすなきすてゝゆく　靜岡　青木絹子

○甲

亡き友のおくつきところとふらへはもりのかなたになく時鳥　長岡　阿部秀子
月清く青葉凉しき山蔭に卯の花みえてほとゝきすなく　岡山　四村長子
在明の月に山路を廻り行けはいつこなるらんなく時鳥　青森　留目文子
ほとゝきす待ちに待ちつるかひありて今日初聲をきゝえつそ　[illegible]　小島駒子
一聲を月に殘して時鳥ひよとりこえ谷に落ちけり　甲府　中川のめ子
山の端の月に一こゑ時鳥江な鳴き渡む明けほのゝ空　三重　庄司るや子
わけ行かは又此の奥に里やあらん招くに似たり山時鳥　青森　岩村芳江
短夜にみはてぬ夢もありあけの月かけ高く鳴く時鳥　山梨　藤原ゆき子
郭公こよひはなれの我庭の花たちはなに雨もそゝきぬ　愛知　山内經子
朝つゆにぬるゝかまゝに野をゆけはならの木梢になく時鳥　栃木　植竹欧子
堂守りによひさまされて聞きにけり谷渡りつゝなくほとゝきす　[illegible]　金田つるえ
寢さめして聞くも嬉しき時鳥いま一聲なもらしても行け　青森　大橋のぶ子
青葉山たつねしかひも有明の月に初音をなくほとゝきす　青森　三上八重子
在明の月に梢にかたふきてみそらさひしくなくほとゝきす　東京　安東いの子
明日越えん峠のもとに宿りしてうつら〳〵ときくほとゝきす　北海道　山村雉代
たゝひとりつままつ夜半のつれ〳〵をなくさめ顔になく時鳥　東京　岡田[illegible]子
はからすも今日こゝに來てほとゝきすきゝし一聲家苞にせん　京都　渡邊米子
一聲をきくもうれしやほとゝきす今宵そ夏の初めなるらん　京都　渡邊時子
一聲をきかまほしさに今夜また月さす窓にふみを讀みつゝ　京都　清水今子
[illegible]

○乙

山里は茂れる松の多けれは市より先に聞くほとゝきす　東京　田中まつ子
初聲の聞まほしさに時鳥また一夜を明しぬる哉　青森　田島正子
忍ふ岡物見車のあとたえて月もはつかなくほとゝきす　東京　[illegible]仙子
[illegible]
とひきませ青葉しけりて時鳥なかぬ日もなき山の下庵　鎌倉　中隈富士子
五月雨の降りくらしたる空はれて月に一聲時鳥鳴く　長野　植原千代子
我せこは歸りきまさす待ちわひてひとりぬる夜を鳴く子規　靜岡　小川須磨子
月かけに沖の小島も見ゆる夜をやき時鳥なきてすくらん　埼玉　水野椒子
夜深くしけれる森に月すみて一こゑ高く時鳥なく　石川　厚子
都よりきませる友に一聲をはやくきかせよやまほとゝきす　靜岡　彦坂きよ子
雨雲のそらになけとも時鳥くもらぬこゑのおもしろき哉　山口　末田竹子
有馬山いてゆのやとのつれ〳〵にうれしくきゝしほとゝきす哉　大阪　十合實子
母君の御藥とりて歸るさに一聲きゝしほとゝきす哉　三重　西山ひさえ
うの花のかき根を月とまかふらん山時鳥初音なくなり　青森　大橋かれ子
ふりはへてきゝにきませるともゝあり一こゑもらせ山ほとゝきす　石川　齋藤すても
あけはなちひとりなかむる夏の月計らすもきく時鳥かな　栃木　荒川みせ子
此頃はなきて過ぎぬときゝしより山ほとゝきす猶またれつゝ　津　中島千葛子
夜毎〳〵待つ甲斐ありて今夜しも吾庭近くなくほとゝきす　濱松　小川三保子
皐月やみ影見えすともほとゝきす聲たにもらせまちそ佗ぬる　愛知　下郷きみ子
旅にしてねられぬ夜半の淋しさに一聲きゝつ山ほとゝきす　東京　麻布敏子

▲應募歌數　五百八十三首

▲藤澤驛（二等）　京都　花輪余志野

別れ惜みてうまや路に
われを送りてこし友と
語る夕べの月くらき
空にひと聲ほとゝぎす
啼いて過ぎたる森蔭に
はや小車のまかね路を
軋る音こそ聞ゆなれ
あゝ今更に四つの袖
わかたんことの惜しきかな

▲選者曰　この藤澤の驛路に調の聊か躓きを恨みとす

▲桑接女（三等）　愛知　市川はな子

寢亂姿　鏡もとらず
露にそぼちて　朝桑つめば
玉のこと〳〵　ゆらに輝き
てらす旭の　影もはづかし
よべのむつ言　胸にくりつゝ
夢の心地に　朝桑つめば
おぞや毛虫の　毛を逆立てゝ
嫉みがましき　ふりにもあるかな

▲選者曰　ちよいと面白い

俳句　時鳥

天　愛知　岩崎くち子
病む夫を看とりする夜や時鳥

地　廣島　白井政子
一聲に夏を定めて時鳥

人　愛知　下郷きみ子
むら雲を鳴て破るか時鳥

十客

親知らぬ兒の泣く宵や不如歸　四谷　秋元小菊
明けし夜も知らで待ちけり杜鵑　群馬　木暮千代子
朝空に初ほとゝきす待たれけり　青森　津森とし子
句もならで孤燈ふけたり時鳥　鎌倉　中隈富士子
すてし子の行衛やいづこ時鳥　濱松　萩原さだ子
當の音に聞きのがしけり時鳥　京都　磯谷澪子
郭公なくや上野の朝ぼらけ　三重　玉井光子
明けて付る一聲ほしき時鳥　福島　小川しん子
一こゑのわかれかなしや時鳥　山口　末田良節子
一聲やみやこの空にほとゝきす　東京　渡邊染子

第五十六 作歌募集
題　蚊遣
選者　大口鯛二氏
規定　一人一首用紙繪葉書
六月廿日發行本紙上に披露
天地人當選者に募集繪葉書贈呈

第四十七 短文募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　總振カナ附用紙繪葉書
六月廿日發行本紙上に披露
一二三等當選者に募集繪葉書贈呈

第廿七回 俳句募集
題　蚊遣
選者　編輯局同人
規定　一人一句用紙繪葉書
六月廿日發行本紙上に披露
天地人當選者に募集繪葉書贈呈

第卅四回 新詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　短きもの用紙繪葉書
六月廿日發行の本紙に披露
一二三等當選者に募集繪葉書贈呈

締切六月五日限り

○

時鳥鳴くや舟出る夜明け方　函館　菅原小靜
[illegible]
旅しても初音聞たし時鳥
一聲に衣笠山や時鳥
月かげにちらと見そめし時鳥
赤々と入江の月や時鳥
明け鐘に思ひ切つたれは時鳥
うたゝ寢の夢さましけり時鳥
[illegible]

▲申上げ候▲
短文、和歌、俳句、新體詩應募のハガキには御住所姓名を洩れなく御明記被下度候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京評論の評論
新公論
五月號
月刊一冊 定價十五錢 一年郵税共壹圓六拾錢

萬報一覽 本誌一冊を以て内外最新最健の思潮を網羅す華有り實有り日本一重寶の雑誌

▲新聞界の大秘密……暮村隱士
▲文明人と神經質……富士川游
▲天然觀察の種々……後藤牧太
▲花の趣味の變化……戸川殘花
▲東西人種の土俵場……
▲女子犯罪の三大源因……
▲樂天的成功の秘訣……
▲世界各國の諷刺書……

法治國民としての素要　伯爵 大隈重信

▲青年と小説……伊藤銀月
▲醫者と宗教……高木兼寛
▲敢て爲すの人……ブース大將
▲小説 傲慢……生田葵山
▲長壽の秘訣……
▲演説の秘訣……
▲公論文藝……
▲米國の貴族主義……

帝國版圖内の人種　理學博士 坪井正五郎

東京本郷區東片町 新公論社 振換貯金 三二四〇

洋織物 裁縫物
毛布 敷物類
何なりとあり有まいと
御思召品も御尋下さい

TRADE MARK
東京湯島切通下
ツカダヤ
電下一三〇二番

商品案内表無代送呈
商品概要
金銀時計類
及附屬品。眼鏡類
寶石入指環。金銀盃
茶器類。洋食器。七寶花瓶
貴金屬美術裝飾品
大勝堂
東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

大阪の迎
最新幼年雑誌
家庭教育 繪ばなし
◎大評判の「繪ばなし」第二號出づ
全部彩色 三歳以上 幼年
▲懸賞 ハメ繪 ▲お節句のお飾 ▲紙椅子のこしらえ方 ▲名所圖繪
▲影繪 おもしろいお顔 ▲幼年教育 馬の失敗 ▲つゞき ポンチ ▲大博覽會
▲動物園の麒麟 ▲水族館の人魚 ▲五月繪ごよみ ▲彩色動物植物 彩色美麗等
◎五月五日發行 ◎第貳號
◎六錢郵税五厘 半年郵税共卅八錢 一年七拾貳錢
者に見せる最良の雑誌
東京京橋區南紺屋町十二番地 實業之日本社 各地賣捌

最新着荷
夏季用帽子
及手袋夏ショール
小供帽子
其他新品多數
東京神田區小川町通裏神保町一番地
中久商店

東京博覽會第一號館化粧品組合内出品
最新流行
美術蒔繪
髮油
洋化粧品
和香水
東京日本橋通
浪花一四〇六

丸善製
日の丸はみかき

牛乳ノ主成分ニテ製セル
乳白化粧水
レート
在來化粧水ニハ單皮膚ヲ滑カニスルモノアレドモ未ダ營養ヲ與ヘ且ツ美艶純白ニスルモノナシ獨リ乳白化粧水レートハミルクノ有効分ノミヲ精製シ濃厚ナル香氣ヲモ加ヘ少量ニシテ效多ク皮膚ノ細胞作用ヲ活潑ニスルヲ以テ自然純白艶ニシ天然ノ光澤ト色彩トヲ與フ
定價 大瓶金五拾錢 小瓶金三拾錢
東京 大阪 平尾贊平發賣

めをはくがき

ラクダ石鹸
ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかほりを失はざる一大特點を有す
定價 大形廿錢 小形十錢
東京日本橋區本石町三丁目
芳香藥種問屋 本舗 井上太兵衛

岡田起作編
並に書
女子消息 文のてならひ
和紙刷美本 定價金卅五錢 郵税金四錢

平野俊子著
岡田起作書
女子消息 ゆきかひぶり
和紙刷美本 定價四拾八錢 郵税金四錢

東京市神田區小川町
大野書店

登録商標
羽おり紐
華しる
松竹組糸舗
定價表ハ御申越次第直ニ呈送仕候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京勸業博覽會

高等御婦人用小間物各種

美術貴金屬袋物商

東京日本橋區人形町通り

澤田治助

長電話浪花二五六九番

第二號館彫工會内出品

西洋酒罐詰食料品

清酒罎詰 世界長 御進物用 美麗箱入

最上清酒

世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり

罎詰 一升入 四合入 貳合入 一合入 の四種

東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）

發賣元 高橋商店

電話浪花一五六一番

東京勸業博覽會第二號館酒類ノ部ニ出品

大俵炭

大徳用

山出シノ儘叺入堅炭、土釜、切炭、壹俵ハ拾貫目内外入

目方ウリ

市内ハ無賃配達

戸塚商店

（電話本局三二〇八）

神田三崎川岸

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門

信略號（キハク）又（ハク）

最上醬油

キハク印

於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印

醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

確實製造大販賣 卸小賣

夜具 蚊帳 夏冬 ざぶとん

●品質保險附●正札引なし●縱覽御隨意

諸官省御用

東京神田區表神保町 矢田商店 電話本局長一一〇八 市内無賃配達

博覽會賣店

不忍池畔雪見橋近傍 矢田出張店 市内無賃配達

商標御注意

季節柄 魁新 半ゑり 帶揚類

○季節用 レース附ショール ネクタイ
○片側帶 丸帶 友染 絞り 刺繍 摸様
○夏單帶 ○浴衣染模樣 絞り形 ○襦袢袖
○裾模樣け出し ○兵兒帶絞り染 ○下じめ
○長襦袢染模樣絞り形 ○伊達卷 ○懷中帛紗

博覽會賣店 池之端雪見橋 ゑり治

本店は 新橋竹川町 電新二〇二七 ゑり治

支店は 神田表神保町 電本局九五二 ゑり治

新橋博品館内階下 ゑり治出張店

麹町内山下町帝國五二館内 ゑり治出張店

別染 めりんす 友染 衣物 胴柄

人形町通 住吉町 赤のれん

おゞきや

東京神田小川町壹番地

金石舍美術店

電話本局六八一番

東京勸業博覽會第一號館出品 不忍池畔辨天際賣店

消化新藥

胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉歸を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の内、澱粉不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟するに完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す

醫學博士 井上善次郎

高峰博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有することは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種患者に毎に之れが服用を勸告する者なり

醫學博士 栗本東明

OY

夏物新荷到着

婦人洋服地及附屬品並ニ袴地。帽子。造花。リボン。洋櫛。ショール。日傘。レース。手袋。沓下。ハンケチ。其他化粧品洋小間物一式

婦人洋服裁縫仕候

八木屋號

東京麹町區二丁目

大國市藏

（電話番町七四二番）

○都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登錄商標專用ヲ得タル物ナリ
○都足袋ハ觀優雅ニシテ現ニ都人粹士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
○都足袋ハ随ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フヿナシ

都足袋粹乃友

○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ
○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル効力ヲ有セリ

三重足袋君の盃

○三重足袋君ヵ盃ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ拔クノ耐久力ヲ有ス
○三重足袋君カ盃ハ甲三重底三重ナルヲ以テ常ニ逆上性ノ方ニハ特殊ノ効力ヲ有ス
○三重足袋君カ盃ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂防ノ滲出ヲ遮ギリ體溫ヲ保ツノ効力アリ
○東京勸業博覽會第三號舘入口ヨリ東南偶足袋商組合内ニ出品仕候

龜屋

東京日本橋室町三丁目 龜屋足袋店

電話本局一七一二番 宮内清兵衛（略電カメヤ又カ）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見よ最新最良の健康増進法

健康大觀

五月十日發行　實業之日本創刊十周年紀念臨時増刊　正價廿錢　郵税二錢　切手代用一割増

博士諸大家の責任ある健康教訓十六大雄篇

◎長壽は如何にして得べきか……醫學博士遠山椿吉
◎強肺術及肺病豫防法……醫學博士柏村貞一
◎如何なる食物が健康を増進するか……醫學博士大澤謙二
◎胃腸は如何にして健全ならしむるか……醫學博士入澤達吉
◎眼の衛生法及び眼病豫防法……醫學博士山口秀高
◎牛乳は如何に飲むべきか……醫學博士加藤照麿
◎飲酒の恐るべき害毒……醫學博士榊保三郎
◎脚氣の豫防法及注意……醫學博士三浦守吉
◎精神作用の健康に及ぼす偉力と實例……醫學博士木村德衛
◎腦は如何にして健全ならしむべきか……醫學士樫田龜一郎
◎鼻の不養生は如何に諸病の原因となるか……ドクトル佐藤敏夫
◎齒の衛生法及び齒痛豫防法……ドクトル志村誠麿
◎運動法◎健康的生活法◎スマイルス健康教訓

東京南紺屋町　實業之日本社（振替貯金口座三六二三番）　賣捌全國各地

東京産科婦人科楠田病院長　楠田謙藏先生閲幷序
産科婦人科專門醫院　渡邊光次先生著

第十九版　普通

姙娠論（にんしんろん）

附り　姙娠の攝生

本書は久しく産科婦人科に從事して經驗に富める專門醫渡邊先生の著にして生殖器の解剖、生理、衛生を始めとし生殖に影響する全身の疾病婚姻幷婚姻後の注意姙娠幷姙娠後の攝生に至る迄廿三章百廿項を設け悉く網羅して平易簡明に説述し加之精巧なる石版圖書數十葉を挿入し振假名を付せられたれば苟も自己の健康に注意し系統を蕃殖し

強健の子孫を得んと欲する諸君は男女を問はず必ず一讀せざる可からざるの好著述なり一たび此書を繙かば多病なりし夫人は壯健となり不和なりし閨門は圓熟し不妊なりし婦人は可憐の小兒を擧ぐるを得ん大方の諸君乞ふ世にありふれたる此種の著書と同一視することなく一讀其不幸を癒せらる可し

附錄　小兒養育法　一名兒を設くる法
石版密圖四十個挿入　正價六十錢　密封郵送十錢　紙數二百五十頁　◎懷中本

◯家庭衛生新書　岡部醫師著　正價四十五錢　郵税四錢
◯普通臨床看病法　醫士關氏著　正價卅錢　郵税四錢
◯衛生講話婦人の友　渡邊光次著　正價十五錢　郵税六錢
◯普通療病新書　醫士關氏著　正價六十錢　郵税四錢
◯情育觀　一名男女交際の栞　瀬川博士　楠田謙藏閲　正價四十五錢　郵税六錢
◯姙産婦の心得　一名安産育兒の法　正價三十五錢　郵税四錢
◯花柳病豫防療法　圖入　正價六十錢　郵税四錢

發行所　神田區鍛冶町（電本九四九）誠之堂書店

四月一日より
第十三回新柄陳列會
寄せ切れ見切り反物大賣出し
懸賞裾模樣圖案展覽

營業科目
新柄呉服太物類　舶來小間物化粧品類
歐米流行洋服類　帽子洋傘履物類
鞄及旅行用具類　室内裝飾品類

食堂及び寫眞場の設けも有之候

三越呉服店（ミツコシゴフクテン）
日本ばし駿河町

東京パック定期増刊

東洋一の漫畫雜誌

贅六パック

第二号

◎本號は特に紙數を増し色彩を加ふ大勉強大奮發讀者の膽玉を奮はんとす◎

贅六パックとは江戸ッ子が上方人を上品に惡口を云ふ雜誌なれば敵も味方も見逃しがたし

十日發賣　定價一部十三錢　十部前金壹圓廿五錢　廿部前金二圓四十錢　郵税共

要目　表紙上方娘　氣質大阪商人の中綸　贅六の夢、血清療法　靈魂の晝目　錢道パック　贅六の美術眼　丁稚の處呂松　外數十件　讀物ぜい錄其他

東京有樂社發行

松澤ホーサン石鹼

○色白く艶をだす最良之化粧石鹼（大形廿錢　小形拾錢）
○到る所に販賣す（にせ物）あり松澤ホーサン石鹼と御買求を乞ふ

東京本石町四丁目　芳香藥種問屋　ムスク香水本舖
松澤常吉（振替貯金口座四四七番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常磐橋内）
日本興業銀行
電話本局 三、三〇〇番 四一一番（特）三七一番 一〇二二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四一四二番 浪花四五一一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓ニ付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金手數料
其他銀行一般の業務を便宜に取扱可申候

スコット乳薬
咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ著大ノ効験アリ早ク試賜ヘ
説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳薬部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

天下一品
最上醬油
醸造元 千葉縣野田町 茂木佐平治
賣捌所は各地とも有名なる酒醬油店に有之候

誇乃親王
東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
本郷區本郷五丁目
小賣部 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

二五共進會銀牌受領
宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ
香油 パーール

日本發賣元東京平尾分店

東京勸業博覽會第二號館出品尚不忍池雪見橋際賣店並に婦人博覽會第二館出品

杉原耳鼻咽喉科醫院
生義多年東京醫科大學耳鼻咽喉科に勤務の處今般辭任の上專門診察に從事す
診察 自午前八時 至午後三時 杉原正壽
神田區錦町壹丁目（青年會館前）

○院長 ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二二六七〇番）
○婦人科產科 木村病院

產科婦人科 入院隨時
醫學士 佐藤得齊
日本橋大傳馬鹽町拾四番地（電浪三二一八三）

眼科專門 （診察）午前七時ヨリ十二時 午後三時ヨリ五時迄
ドクトル メヂチーネ 宇艮田唯子
神田區連雀町十八番地（郵便局前）
△毎月第一日は診料藥價共無料

小兒科診察
特ニ 乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病
診察時間（午前九時ヨリ十二時）
獨逸新式種痘 日曜午前
抽者儀久シク獨逸大學ニ於テ斯學ヲ專攻シ歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
日本橋區數寄屋町一、（電本百八十）

內科小兒科 特に 呼吸器病
ドクトル 川瀬元九郎
麴町はやぶさ町二十八番地
電話番町八二二番

婦人科產科榊病院
院長 醫學博士 榊順次郎 毎日午前診察
副院長 醫學士 久保德太郎 毎日夕刻診察
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

婦人病專門
院長 櫻井克己
櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮棟前 電話新橋三三二四

小兒病診療 宅診午前 往診午後
醫學士 內田槇太郎
淺草區福井町貳番地
電話下谷七一八番

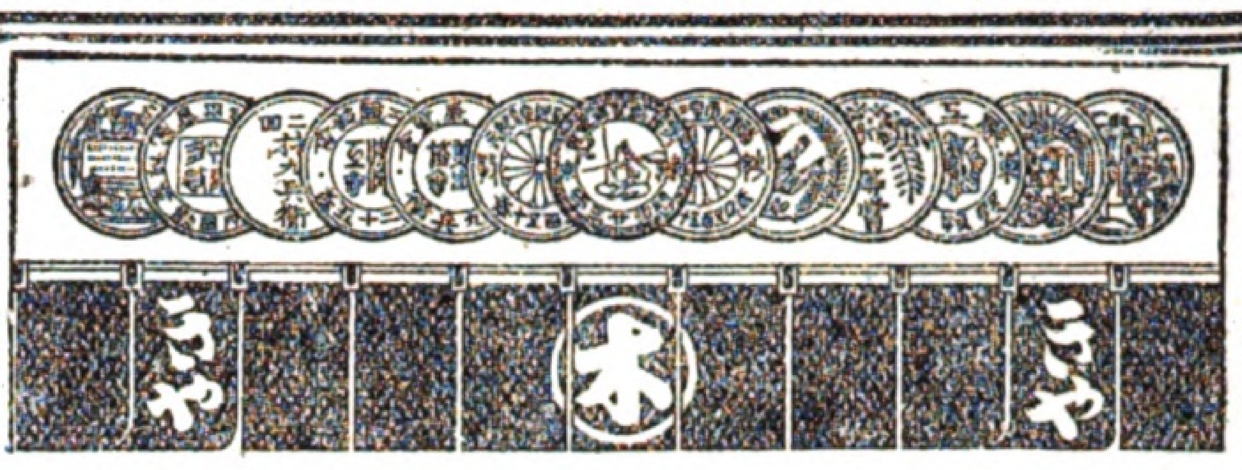
院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

內科殊に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰內科醫院
神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）

內科一般 午前宅診 午後往診
板垣亨
東京神田區美土代町三丁目十七番地
電話本局貳千九百七十番

產科婦人科
楠田病院
日本橋區濱町三丁目七番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



美術 漆器 蒔繪

御婚禮道具 膳椀家具 其他各種 御杯製造

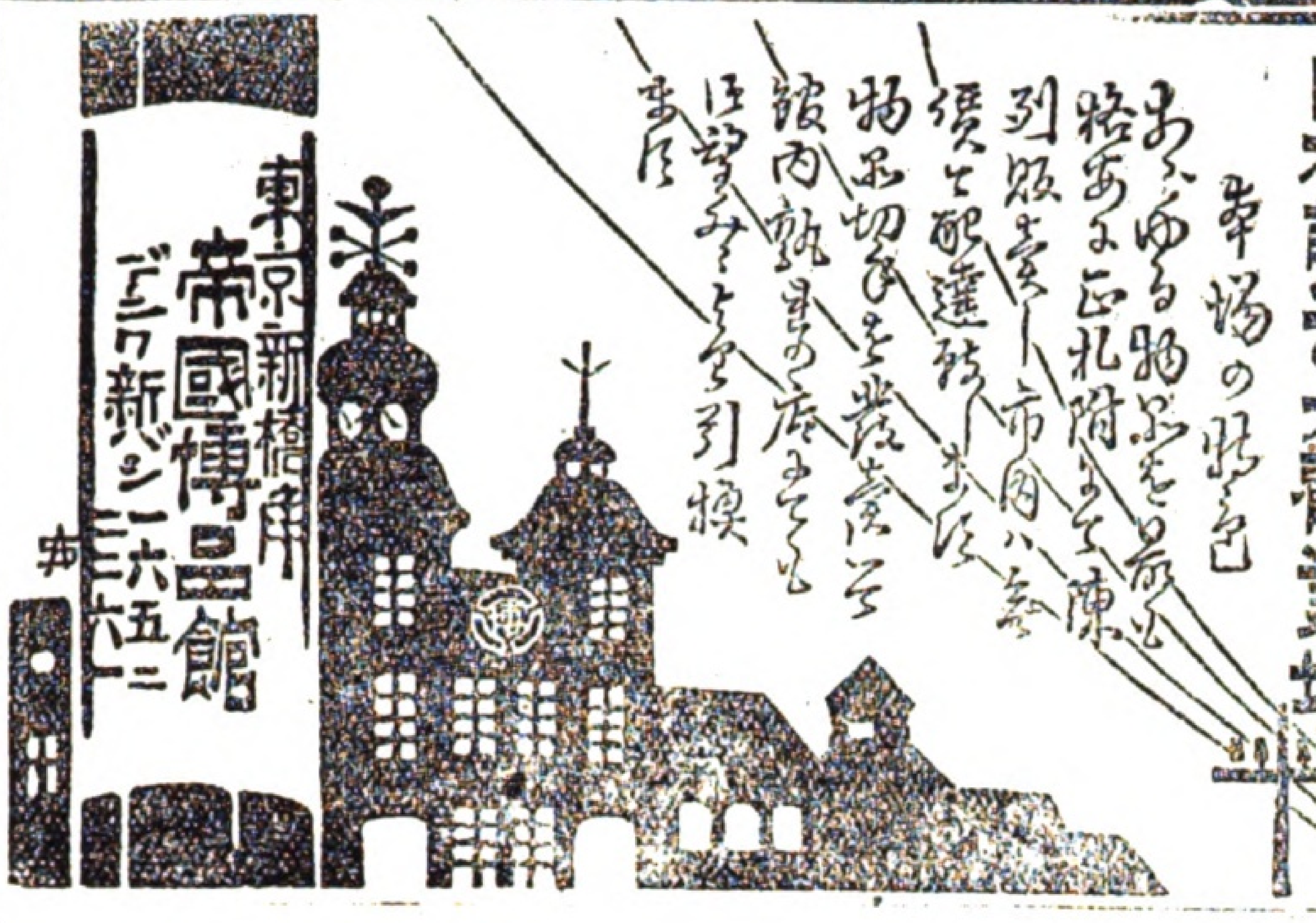
陳列場設置仕置候間御隨意ニ御縦覽多少に不拘御用向仰付被下度偏に奉希上候敬白

東京市日本橋區室町貳丁目

木屋本店 林九兵衛

電話本局 九百七十七番 千七百十番

胃病良藥 太田胃散



日本第一の大勧業場

東京新橋角 帝國博品館

電話新橋 一六五二 一六三一

ムスク香水

（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）

○本品は芳香の永く保つ點に於て無類の高評なり

東京日本橋區本石町四丁目 ホーサン石鹸本舗 本舗 松澤常吉

（電話本局貳阡四拾五番）

季節向新製品の設備

本店曩に東京勧業博覽會會場館内小間物商組合の中へ御婦人頭飾品裝身具携帶品等を標本として出品仕候處意外の御好評を博し候事平素着實なる本店の營業振に依るとは云へ全く大方の厚き御引立の致す處と深く感佩仕候

猶新緑の候と相成候へば今回特に意匠を凝らし季節向の御用品として瀟洒なる圖案の御髪飾を始め帯環帯締等の裝身具及び御携帶品各種を新製の上悉く本店に設備仕候へば博覽會御見物又は御散歩の途次必ず御來店の榮を賜はり度く新製品として此の他にも御土産用紀念品各種取り揃へ有之候

明治四十年五月

店主 松田幸次郎 敬白

東京市京橋區尾張町 白牡丹本店

電話新橋五五一番

ライオン館休憩所（第二會場正門際）

御休憩御隨意（入場無料）入場者には見本品を洩なく呈上致候

東京勧業博覽會 不忍池畔

ライオン館 休憩所

博覽會開會中は毎日開館仕候間博覽會御觀覽の途次是非御來館の程奉待入候

●化粧室、洗面處、電話室の設備あり殊に香水の噴水器は博覽會開會式當日宮殿下の御休憩所へも供へしものにして博覽會中全く比類なき一大呼物にして花香紛々として館内に滿ち其爽快云はん方なし其他英國ロンドンより購入せるライオンは稀有の大獅子にして教育上多大の參考となるべし

●内外嶄新の化粧品を備へ置候間御需により特に廉價を以て販賣致候

ライオン齒磨發賣元 東京神田 小林富次郎商店

支舗●大阪博勞町●清國天津日租界○同漢口河街○同上海佛租界

各女學校御用

シホン

附屬品并に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地

天野卯兵衛

電話(長)浪花一六四三番 振替貯金口座四九七番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

第四回新學期開始

文學講義録

會員大募集 五月三十日迄入會金全免

●本會は下田歌子、棚橋絢子、津田梅子諸女史の賛助に成り講師は皆斯道専門の大家也●會費最も低廉都會一ヶ月の遊學費にて全期を了はるを得

●中央新聞曰く講述何れも平易にして親切なれば初學の女子の講習には最も可なり。●報知新聞曰く天下講義録多しと雖も實益と趣味と併せ有すると斯くの如きは稀れ也●都新聞曰く講義平明にして用意親切なり

父母の膝下に在て高等女學校全科を僅に二ヶ年で修了する事が出來ます講義は文部省令に據れるは勿論更に家庭の實用に適する科目を加へ丁寧懇切に講述します

●規則書申込次第直に進呈すべし

大日本女學會

東京神田三崎町一丁目十番地

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達 玉寶堂

電話下谷（特）九六五番 二一四四番

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂

神田三河町 博報堂

京橋區南紺屋町 一星堂

京橋區南鍋町 秀逸社

日本橋區上槇町 萬年社

日本橋區箱崎町 春風舍

京橋區宗十郎町 正路喜舍

京橋區日吉町 帝國通信社

同區彌左衛門町 京華社支店

同區南鍋町 廣告社

明治四十年五月廿日發行（每月五日二十日二回）（定價金三錢一ヶ月六錢、郵税不要廣告料一行金六拾錢）

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 東京麴町區飯田町一丁目 愛國婦人發行所 印刷所 東京牛込 秀英舍工場

愛國婦人會記事

◎總裁殿下支部御台臨　山形支部第一回總會開催に付總裁殿下は來る二十六日御出發左の御日取を以て御台臨あらせらる

	御發	御着
廿六日	上野前八時五十五分	福島後五時卅七分
	福島後五時四十分	長岡後六時三分
	長岡六時廿分	飯坂後七時
廿七日	飯坂前十一時卅分	福島後十二時半
	福島後十二時四十分	山形後四時五十六分
廿八日	山形支部總會	
廿九日	山形前十時四十二分	福島後三時一分
	福島後三時廿分	飯坂後四時
三十日	飯坂前十一時廿分	福島後十二時
	福島後十二時廿七分	上野後八時廿分

◎軍人遺兒養育院へ補助　福島縣安達郡二本松町渡邊三郎氏の經營にかゝる軍人遺兒養育院へ金百五十圓寄附の件評議員會に於て議決したり同院は陸軍歩兵特務曹長渡邊三郎氏の設立せる所にして氏は三十七八年戰役に從軍し退職歸郷后殊勳の恩典に浴したるに感泣し戰死者遺孤の貧困なる者を收容し之に職業を授け自活の途に依らしむる方針を立て自己の年金を擲てこの院を設立したる篤志家にして現時已に數名を收容し居り依つて本部は支部に對し其實況を調査したる結果確實のものと認めこれに補助する事となせり

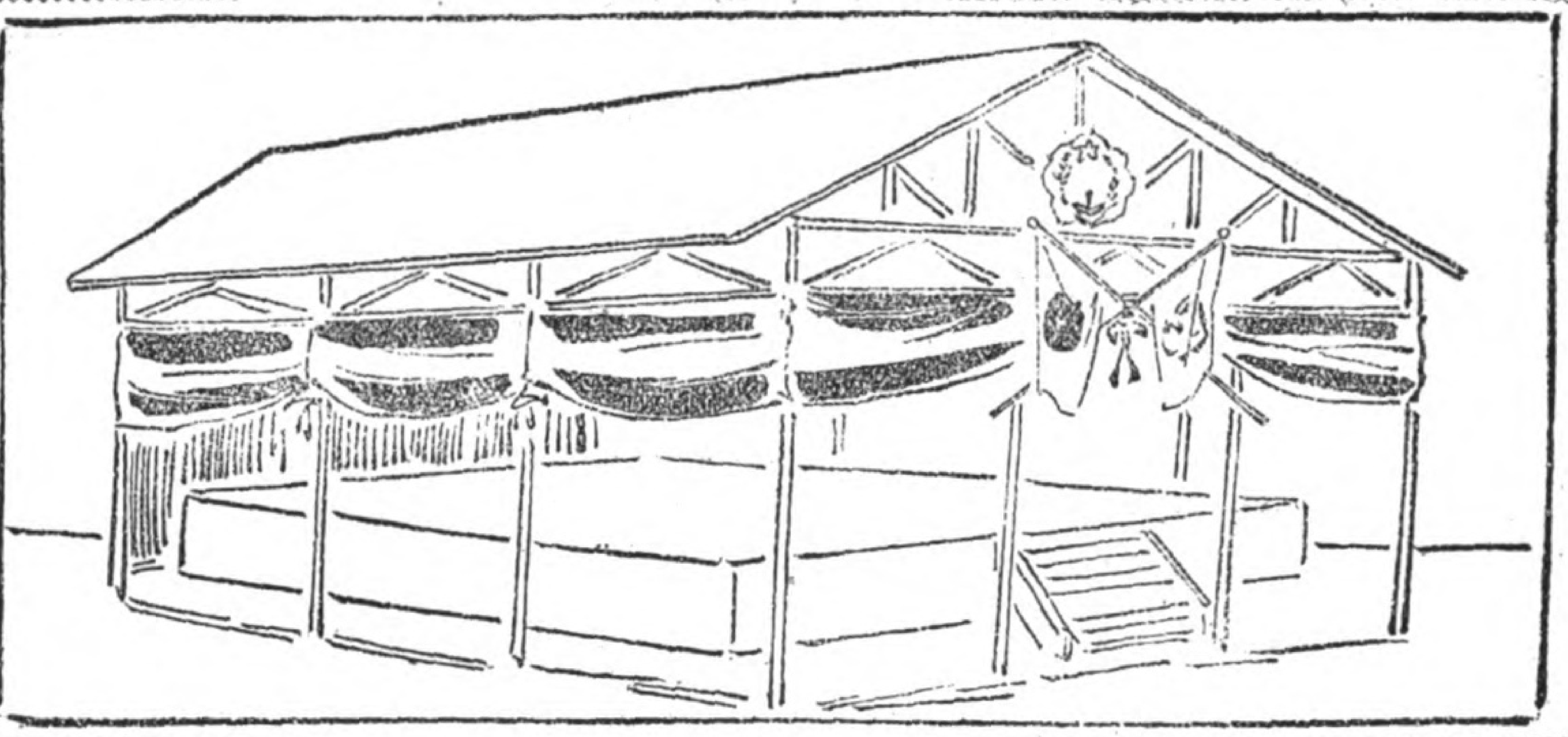
◎失明廢兵に點字盤寄贈　全國失明の廢兵凡百名に對し點字盤（文字を探り讀む器械）一個宛此の代金凡百五十圓を支出し該器械を購入し各自に贈與方を東京盲啞學校長小西信八氏へ依賴の件評議員會に於て可決したり

◎失明廢兵に贈與　東京盲啞學校に收容し現に教育を受けつゝある失明軍人十四人打ち揃ひ去る三日靖國神社へ參拜後牛ケ淵公園内なる我會特設の遺族接待所に立寄れり國家の爲めに負傷したるもの不少ざるも失明症の如きは不幸中の不幸にして同情の念に堪へざるものあり依つて本會は一人に付き金拾圓づゝ菓子料として贈與せり此金百四十圓支出方爾後承諾の件評議員會に於て承諾せり

◎決算報告　三十九年度の決算報告は去る五月八日の評議員會に提出し承認を得たり尚事業擴張諸費に於て追加豫算確定後十二月に於て韓國特使及同夫人を招待したる爲め四百四圓五十九錢豫定に超過し之を他の殘金にて流用支辨したる件評議員會にて事後承認を與へたり

愛國婦人會第六回總會

豫報の如く愛國婦人會第六回總會は昨十九日青山練兵場に於て擧行せられたり今其模樣を記さんに陸軍大學校の裏門前に一段高き式場を設け其左を大臣親任官顧問男子貴賓有功章者男子席新聞記者席となし階段の右を會長席理事監事各支部長評議員女子貴賓有功章者女子席となし其前面を有功章拜受者席其後を一般會員席とせり尚大學校内の貴賓席を各宮妃殿下の御休憩席となし其他大臣親任官顧問支部長の人々は大學校内に休憩所を設け又各府縣支部の休憩所は成るべく遠方の支部を成るべく式場に近く陣取るやうに作り本部を中央に置き其左に救護所を設け其左右前面に休憩所を設け數丁の間に矢來を結び幔を張り入口には紀念品分配所及び受付審査所を設け用意は怠りなかりしが午後二時開會なるにも拘はらず會員四方より寄り集ひ開會までに既に一万五千人の多數に達せり第一喇叭を合圖に來會者一同式場に集るや第二喇叭につれ君が代吹奏中總裁殿下は名譽各妃殿下と御同列にて式場に御台臨あらせらる岩倉會長は開會の辭を陳べ同時に三十七八年戰役に關し本會に賜はりたる御令旨を捧讀す。總裁殿下は左の御諭旨を賜ふ



愛國婦人會第六回總會を開くに方り諸子と親しく相見るは智惠子の最も喜ぶ所なり　曩に時局に關しては畏くも皇后陛下より優渥なる令旨を辱ふす今や平和克復日を經るに從ふて益ゝ同情を表すべき遺族廢兵ありて本會の責任一層重きを加ふ諸子彌ゝ奮勵上は皇后陛下の令旨に副ひ奉り下は本會主旨の貫徹に努力せられんことを望む

會長は左の答辭を奉讀せり

本日我愛國婦人會第六回總會に方り畏くも各妃殿下の台臨を辱なふし殊に總裁殿下の御諭旨を賜はる久子等の光榮何物か之に加へん今や日露戰役に於ける行賞に發表せられ文武の諸官皆其澤に浴して殆ど戰局當時の辛酸を追懷するに遑なきが如し獨り遺族廢兵に至りては時に悲觀銷沈の傾きなきにあらず茲に於て益ゝ之が援護慰安のことに盡力せり是れ本會の責任にして亦戰局に際し畏くも國母陛下より特に本會に下し賜へる優渥なる令旨に副ひ奉るの道なり久子等自今一層努力し戰後に於ける本會の責務を果し以て我總裁殿下の台旨に酬ひ奉らんことを期せんとす聊か所思を述べ謹みて答辭に換ふ

事務長は會務並に會計報告を爲し（書類代用會務及會計報告の要領は本紙附錄三ページ四ページに掲ぐる通り）それより評議員補缺選擧に移りし處會長に指名の議万場異議なく通過し夫れより總裁殿下は左の諸氏に親しく有功章を御親授あらせらる

特別徽章　元台灣支部幹事部長　山形稲子
一等有功章　本部評議員伯爵母堂　井伊常子
仝　東京支部幹事部長　丸山壽滿子
仝　宮城支部　武笠美代子
二等有功章　滋賀支部長　川島澄子
仝　本部評議員　内山訓子
仝　仝　穂積松子
仝　青森支部評議員　柳原つる子
仝　東京支部幹事部長　武市喜美子
仝　仝　鷲見幸子
仝　仝　金田ゑい子
仝　茨城支部幹事部長　立花たか
仝　靜岡支部幹事部長　桑原トノ子
仝　東京支部幹事　横幕武良子
仝　仝　宇津木廣子
仝　東京支部　阿邊榮養
仝　仝　三宅左枝
三等有功章　總代

これにて式終り會長閉會の辭を陳べ總裁殿下御退場第三喇叭と共に諸員退場したり時に午後三時半なりし

當日地方より來賓の重なる方は左の如し

愛知支部長　深野汝子
岡山支部長　寺田春子
沖繩支部長　男爵夫人奈良原管子
石川支部長　村上須磨子
靜岡支部長　李家貴實子
熊本支部長代理　錦織りう子
北海道支部長　河島らく子
長崎支部長代理　秦靜子
福島支部長　平岡夏子
德島支部長　谷口美代子
滋賀支部長　川島澄子
栃木支部副長　深町咲尾
岩手支部長　笠井芳子
同　支部副長　帆足梅野
香川支部長　小野田安子
宮崎支部長　永井兼子
群馬支部副長　相良こそよ
山梨支部長　武山澄子
秋田支部副長　山岸兼子
同　大久保つや子

▲餘興　餘興として當發行所よりは煙火を寄附したり又東京支部よりは太々神樂を寄附し遺族廢兵の慰安に備へたり

▲贈與品　當日來會の人々には紀念品として扇子一對づゝ及び菓子二袋づゝを寄贈したり

▲茶菓饗應　本廿日當日の來會の來賓を偕行社に招じ茶菓の饗應を爲す都合なり

▲各支部長招待會　廿二日本部樓上に於て總會出張の各支部長を招待し懇話會を開き晩餐の饗應を爲す都合なり

▲主事打合會　廿三日より凡そ三日間本部樓上に於て各府縣より總會の爲めに出張せし主事の打合會を開く都合なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

神奈川支部第二回總會

同支部第二回總會は去る十二日午前十時より横濱市長住町舊糧秣廠跡に於て開會せられたり本部よりは總裁閑院宮妃殿下を始め岩倉會長、理事部子爵夫人、評議員二條公爵夫人、板垣伯爵夫人伊東子爵夫人、長谷川男爵夫人、高木男爵夫人、松平男爵夫人、黒木男爵夫人、清浦男爵夫人、千家男爵夫人、波多野爲子、濱尾作子、豐島文子、大藏松子、高木鐐子、柳谷千代子、古市幸子、長岡湧子、中山幸子、宇佐川歸子、内山訓子、福島貞子、藤井とく子、有島幸子、阪井春子、佐藤猶子、三井照子、三井五十子、三井壽天子、澁谷知和子、片岡たか子の諸氏及事務員高松鐵太郎氏小池縫市氏岩井惠濟氏、愛國婦人記者手島雄も出張したり、式場は糧秣倉庫構内中央の建物を以て之に充て東面して壇を設け緑色の絨氈を敷詰め支柱は緑葉を以て之を蔽ひ紅白の布を以て左右を覆ひ最も質素且つ神々しく作られたり午前十時席定るや奏樂の中に總裁殿下御臺臨あらせられ岩倉會長以下各々定めの席に着かるゝや支部長周布貞子氏開會の旨を告げ夫れより明治三十七八年戰役に關し賜はりたる御令旨を捧讀し總裁殿下には左の御諭旨を賜ふ

愛國婦人會神奈川支部は會運益々發展し會務亦整ひ茲に其第二回總會の式を擧ぐるに至れるは智惠子の最も欣喜する所なり

惟ふに本會の事業は僅々數年の間に於て長足の進歩を爲せりと雖も其前途尚ほ遼遠なり會員諸氏彌々奮勵し同心協力其目的を達せんことを望む

右に對し支部長は左の奉答文を朗讀せり

爰に愛國婦人會神奈川縣支部第二回總會を開くに方り

總裁殿下親しく臨み給ひ恭も懇篤なる御諭旨を賜はる支部の光榮之に優るものなし

惟ふに本會の事業は日に月に發達し殊に明治卅七八年の戰役に於ては本會の主旨を實地に施し聊か其實績を擧ぐるを得畏くも至貴至高たる令旨を拜受し衆會員と共に無量の光榮を荷ひ本日此式典を擧ぐるに至れり是れ一に總裁殿下御奬勵の餘澤にして洵に感激に堪へざるなり然りと雖も本會の事業は前途尚遠し今より一同心を一にして力を協せ會務を擴張し以て聖旨に副ひ奉らんことを誓ひ茲に會員に代り謹みて答辭を奉る

次に坂副支部長の會務報告あり會長の祝詞周布顧問の祝詞會員總代渡邊たま子氏の祝詞あり夫れより左の諸氏に有功章を御親授あらせらる

▲一等　坂瀧子、原田千世子、北村錫子、國松汐子
原田千之介、北村武與、國松英太郎

▲二等　溝口ツ子子

▲三等　三橋信方以下廿五人總代三橋信方

次て廢兵總代元歩兵上等兵山本菊松（歩兵二十六聯隊に屬し三十七年十一月廿八日二〇三高地に於いて右手腕并に左肘關節部骨傷貫通銃創兼左胸第三肋中央部より右季助部に貫通せる銃創を負ふたる人）遺族總代故歩兵中尉水野正武妻水野ハン氏（清國盛京省水師營西南方高地に於て明治三十七年八月廿一日全身榴彈創を受け戰死の人の妻）へ特別賜金を下賜せられこれにて式を終へ支部長閉會の辭を陳ぶると同時に岩倉會長は式段を降られ親しく遺族廢兵席について慰問の辭を陳べられ總裁殿下御退場あらせらる夫れより餘興に移り來會者には閑院宮同妃殿下御眞像入の織物額及辨當を贈與せり當日來會者約五千人遺族廢兵九百八十名なりし式後總裁殿下及隨員并に支部職員一部は支部樓上に於て午餐の饗應あり知事官邸にて一同撮影し午後二時廿八分發の汽車にて總裁殿下は隨員を隨はせられ御歸京あらせられたり

◉愛知支部　總會の時支部の奉答文は左の如くなりし

愛國婦人會愛知支部第一回總會を開くに當り畏くも總裁殿下の御臺臨を辱ふし優渥なる御諭旨を賜ひ當支部の光榮何者か之に加へん自今一層斯會の擴張を圖り以て御諭旨に副ひ奉らん事を期す

謹みて奉答す

愛國婦人會愛知支部長　深野次子

◉福島支部　幹事部長會を四十年四月廿八日支部長自邸に於て開催す午前十時出席員（各部より十九人支部より卅四人）着席支部長先づ起つて開會の旨を告げ且つ會務擴張會費未納整理會員募集及び廢兵遺族救護等の件につき一場の訓示的演說を爲し畢て協議案を配布し主事これが詳細の說明を爲して協議に移り審議應答正午に至りて議案の大體を議了し何れも原案に贊成せり依て支部長閉會を告げ一同午餐を共にし茶菓の饗應を爲し庭前にて紀念の撮影を爲し散會せしは午後三時なりし

◉大分支部　南海部幹事部に於ては四月二十一日を以て會員總會を開催し其概況を記さんに式場は佐伯高等小學校講堂を以て之に充て正面には總裁殿下の御寫眞を奉掲し豫定の時刻に來會者一同着席するや幹事開會を告げ君が代と共に總裁殿下の御寫眞の覆を撤し幹事部長令旨を奉讀したる後式辭を讀み幹事會務報告を爲し顧問祝詞朗讀し來賓祝詞あり會員總代答辭を陳べ唱歌と共に御寫眞の覆を爲し幹事閉會の旨を告げ一同退散せり當日來賓の重なるは在郷の將校並に遺族廢兵佐伯小林區署長毛利子爵夫人等にして式後來賓並に會員に茶菓を饗せり當日は來會者數百人にして非常の盛會なりし

愛國婦人會會員女子人口比較表（明治四十年四月末日現在）

支部名	特別會員	通常會員	計	女子人口（三十六年末）	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
石川	一、九九〇	一九、三九六	二一、三八六	三八五、四七八	五、五五	[illegible]
山口	八四六	二五、九三一	二六、七七七	五〇六、九二〇	五、二八	[illegible]
山形	九一〇	一八、一九九	一九、一〇九	四三九、六一八	四、三五	[illegible]
愛知	一、四三六	三四、二九二	三五、七二九	八六八、五三八	四、一一	[illegible]
福岡	二、六七六	二六、三九七	二九、〇七三	七七二、七四三	三、七六	[illegible]
岡山	一、〇三八	二〇、〇二五	二一、〇六三	五七七、二七二	三、六五	[illegible]
北海道及函館	三、二二四	一五、〇〇八	一八、二三二	五〇七、六三八	三、五九	[illegible]
富山	九六四	一一、九〇四	一二、八六八	[illegible]	[illegible]	[illegible]
熊本	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
兵庫	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
愛媛	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京都	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
秋田	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
香川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
島根	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
群馬	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
神奈川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
青森	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
佐賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大分	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福井	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鹿兒島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
栃木	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩手	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高知	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
德島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東京	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
滋賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
靜岡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
千葉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山梨	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
廣島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
茨城	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
埼玉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新潟	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岐阜	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
和歌山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳥取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長野	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
沖繩	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
海外	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	六一、六四九	五五五、七八一	[illegible]	二五、三一三、〇四〇	二、四四	[illegible]

備考
支部ノ配列ハ會員比例數ノ最モ多キモノヨリ順次配列ス
北海道及函館ノ兩支部會員數ハ合算シテ掲載セリ而シテ函館支部會員數ハ特別五百五人通常千六百七十四人ニシテ他ハ北海道支部會員數ナリ

◉大阪支部　堺市幹事部は本月五日午後一時より同市大濱旭館庭園に於て第二回總會を開催せり大阪支部よりは高崎支部長、井上、片岡兩幹事龜田主事出張せり第一鈴にて會員着席並に市內遺族着席し第二鈴にて職員來賓着席第三鈴にて幹事神山薫子氏開會の辭を陳べ總裁殿下御上任の砌り本會に賜はりし御諭旨を幹事河盛貞子氏奉讀し高崎大阪支部長の祝詞を陳べ會長の祝電を披露し來賓の祝詞あり河盛幹事部長答辭を陳べ本田事務主任會務並に決算の報告あり高崎支部長遺族を慰問され第四鈴にて會員並に來賓退席せり夫れより庭園內に模擬店を設けスシ、コーヒ、其他の食物を隨意飲食せしめ餘興として蓄音機の催しあり午後五時過ぎ一般退場閉會せり當日來會者六百餘名にして內來賓會員五百名廢兵並に遺族八十七名にして非常の盛會なりし

◉靜岡支部　田方郡幹事部熱海町第一回會員總會を開く會するもの二百有餘名にして委員前田勝次郎開會の辭を陳べ君が代の奏樂に始まり李家支部長[illegible]の告辭演說其他ありて式を終へ宴會に移り餘興として神樂及煙火等ありて午後四時散會せり

◉石川支部　江沼郡に於て明治維新以來同郡出身の戰病死者三百三十有名の招魂祭典を執行するに際し同郡幹事部に於ては幹事會の決議に基き軍人遺族廢兵に對し慰藉の目的を以て茶菓の饗應をなせり接待所は忠魂碑に對する式場の側面に二間に五間の假屋を設け屋上は總て杉葉を以て之を覆ひ屋には愛國婦人會接待所との額面を掲げ軒先は松樹及造花を以て之を飾り幔幕を張る等用意周到なり第一日は百七名第二日は二百六十名の遺族及び癈兵を待遇したり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會第六回總會式次第書

第一喇叭
一、諸員式場ニ整列
第二喇叭
二、總裁殿下御台臨（君が代吹奏一同最敬禮）
三、會長開會ノ辭
四、三十七八年戰役ニ關シ本會ニ賜リタル御令旨捧讀（一同最敬禮）
五、總裁殿下御諭旨（一同最敬禮）
六、會長奉答
七、事務長會務並會計報告（書類代用）
八、評議員補缺選擧
九、來賓祝詞
十、總裁殿下有功章御親授（特別有功章一、二等有功章各自三等有功章總代）
十一、會長閉會ノ辭
十二、總裁殿下御退場（君が代吹奏一同最敬禮）
第三喇叭
十三、諸員退場
以上

明治三十九年度愛國婦人會事務成績報告書

本年の始めに當り我　皇后陛下より特に本會長を召させられ優渥なる御令旨を賜はりて本會が戰時中の功績を御嘉稱あらせられたると同五月第五回總會に行啓あらせられ本會の益々盛大に赴かんことを望ませ給へる御令旨を賜はりたることは永く本會の肝銘して彌々聖旨に副ひ奉らんことを期せんとする處なり

抑三十七八年の戰役その局を結びたれどもこれが爲めに生ぜし遺族廢兵の數亦夥多なりしはその戰役の大なりし結果にして實に已むを得ざる處とす而ふして遺族廢兵救護を以て目的とせる本會は今後の事業につき其責任の至重至大なるに寒心せざるを得ざるものありこゝに於て救護の實施方法を講ずると同時に本會擴張の必要を感ずるに至れり

總裁殿下を始め奉り役員一同協つてこの難局に處し數年間を期して百萬以上の會員を増募せんとす實にこの年の六月本會々長は

總裁殿下の台旨を奉じ會員大募集に關する次の檄文を發表したり

拜啓愈御多祥奉賀候陳者久子等曩に日露の戰機動き帝國將に多事ならんとするの秋に先ち同胞二千五百萬の姉妹方に申告する處ありしははや二年半の昔となりぬ當時我國運は果して如何なりしか日本男子は凛乎辱ふべからざるの元氣ありしとはいへ一度當時內外の狀況に想及せば身戰き肌に粟するものなきにあらず實に恐れて惶れざるを得ざるの思ありき身苟くも軍籍にあるものは申すまでもなく男となく女となく翕然として國家的熱誠に驅られ與補尙且つ舟を同ふして戮力協心澎湃たる風浪を凌がんとするの慨ありき

宜なる哉一片の檄文は職員諸君の奬勵と相俟ち一瀉千里の勢を以て巾幗社會を衝動し戰時中會員は勃勃として增加し本會の活動亦目ざましきものあり彼の援慰藉の事業に於て成功したるのみならず本會基本金は積て三十餘萬圓に上り會員四萬六千餘なりしもの急に其十倍以上に達せり亦盛ならずや

然り而ふして此大戰役に於て損傷したる人命も亦極めて多大ならざるを得ざりき六萬有餘の戰死者に加ふるに約三萬の病歿者を以てし且調査未了の廢兵と日清及西南役のものを算する時は實に十數萬の多きに上るべし此中非增遇にして救護を要すべきもの三分の一或は四分の一と假定するも四萬乃至五萬に近き被救護者の實數を生ずべきを豫定せざるを得ず今や本會會員五十萬に達せりと雖も猶後者の數を以て前者の數を救護せざるべからざるものとせば今更其責任の重且つ大なるを覺悟せざるべからず實に寒心の至ならずや

本會は今年二月二十一日畏くも
皇后陛下より本會の盡瘁せる救護事業を御嘉賞あらせられたる　令旨を辱ふうし又去月新宿植物御苑に於ける總會の節　陛下の行啓を辱ふし本會事業の益々盛大に赴かんことを望ませ給ふの令旨を拜受するの光榮を博せり之に對し　總裁殿下は戰後の大局に當りて我救護の實を擧げ以て大御心を安じ奉るべきの意を奉答あらせられたり本會會員たるもの彼を懐ひ是を念ひ一層奮勵努力以て大に本會主旨の貫徹を勉めざるべからず今や本會會員を百萬人以上に增加し以て此事に當るとせば庶幾くは我救護事業の實を擧ぐることを得ん乎然れど此の百萬以上の會員數を得んには各支部に於ける會員數を女子千人に對する四十の比例以上に進めざるべからず是一日も忽にすべからざるものとす

抑々本會救護實施の方針は本部は僅に規準數（女子千人に對し十人）の會費を以て諸般の基を示し其以上の實行は寧ろ支部の活動に任じ別に基金法を設けて本支部の基礎を堅からしむ今や前段の標準に據りて會員を增募すれば目下の急務に應じ本會主旨の貫徹を見るに至らん

此大募集たるや至難のことたりと雖も不肖久子等各支部長諸君と共に益々忠愛の精神を奮起し鞠躬盡瘁此擴張事業を成功し以て我至仁至慈なる
國母陛下の懿旨に副ひ奉らんことを深く切望して止まざる處なり其擴張方法の如き顧問殿と御協定機宜の處置あらんことを願ふ此段　總裁殿下の御意圖を奉し得貴意度候敬具

明治三十九年六月十一日
愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子
各支部長宛

要するに本年は方に戰後の經營として本會事業の大擴張を圖ると同時に其救護方法等の發展を計畫せり今や三十九年度事務成蹟報告を爲すの期に當り簡略に事務の要を各項に區別し報告する事左の如し

▲**皇后陛下御令旨**　二月廿一日左の御令旨を賜ふ

明治三十七八年戰役に於て陸海軍人の慰安存恤に努力し克く其績を擧けたるを懌ふ

又五月廿日本會第五回總會に行啓あらせられ左の御令旨を賜ふ

本日愛國婦人會の總會に臨み各員を見るを喜ぶ將來益々本會の盛大ならん事を望む

總裁殿下の奉答文は左の如し

本日愛國婦人會第五回總會を開くに方り畏くも
陛下の親臨を辱うし優渥なる　令旨を賜ひ曩には明治三十七八年の時局本會の事業に對し特に懇篤なる　恩旨を拜戴す本會の光榮何ものか之に加へん比年會運隆盛に赴き將さに微功を奏せんとするは至仁至慈なる
陛下が深く廢兵遺族救護の事に軫念あらせらるゝ所にして感激の至りに堪へざるなり智惠子等鞠躬盡瘁以て
陛下の懿旨に副ひ奉らんことを期す謹て奉答す

總會入場者心得

一　總會は十九日午後二時開會に付時限前に入場する事
二　君が代の吹奏ある時は一同最敬禮の事
三　開會閉會等は皆喇叭發音を以て之を報す（式場順序書參照）
四　會場は青山練兵場內東南側（陸軍大學校の裏手）なり
五　來集道筋は青山通り、隱田原通り、四谷信濃町停車場通り何れにても無妨事
六　入場者は入口受附に於て案內狀を出さるべし又招待狀御持參の御方は茶話券と引替らるべし
七　開會前には式場に整列し喧噪に涉らざる樣各自注意の事
八　紀念品は式後退出口にて交付可致事
九　會場內にて本、監、接、贈、茶、寄の文字ある櫻花形の徽章を胸間に附着したる職員あり何事に依らず御尋ねあれば御便宜を與ふ
十　會場附近は狹隘にて一般來會者を收容する能はず雨天の時は各自雨具御用意の事
十一　會場內には携帶品を預る場所を設けざるに付各自御携帶の事但馬車人力車の置場は設置候事
十二　遠路來會々員便利の爲めに會場內に於て若干の食物賣店を開かせ置き候事

▲五月五日偕行社に於て各支部顧問招待會席上
總裁殿下より左の御諭旨を賜ふ

本日諸氏と茲に會するは智惠子の深く懌ふ所なり
抑々明治三十七八年戰役本會の事業に對し畏くも
皇后陛下より優渥なる　令旨を下賜せられ感激の至りに堪へす本會の光榮何を以てか之に加へん
夫れ本會の事業たるや戰時は勿論戰後最とも必要にして其隆盛は一に諸氏の援助に待つもの多し將來益々本會の爲めに盡力せられんことを望む

▲**支部總會に對し御諭旨を賜はりたるは**長崎支部外七支部なり

▲**名譽會員推戴**　六月廿五日　有栖川宮妃殿下を名譽會員に推戴の儀御聽許あらせらる

▲**定期救護金贈與**　本年中本部より戰死者幷に準戰死者軍人遺族に贈與せし人員壹萬貳千八百五十名此金額四萬四千百四拾六圓五拾錢此外各支部に於て增加救護金として貳萬五千六百四拾七圓五拾錢あり

▲**臨時救護金贈與**　本年中本部より戰死者準戰死者軍人遺族に對し贈與せし人員三千三百七拾九名此金額九千五百參拾七圓なり

東北凶作地軍人遺族及癈兵に對し贈與せし臨時救護金は宮城縣一千圓福島縣七百五十圓岩手縣五百圓合計金貳千貳百五拾圓なり

▲**特別賜金**　本年中各支部總會に出席の軍人遺族並に癈兵に對し　總裁殿下より特に金貳圓づゝの下賜ありたるは長崎支部九百四十七人東京支部千六百八十六人京都支部六百六十人石川支部千九百五十人秋田支部七百四十人北海道支部四百十六人山梨支部九百六十九人大阪支部千二百八十九人青森支部九百七十四人福島支部追加九名此金員壹萬九千貳百八拾圓なり

▲**授產及教育事業**　本會の事業は可成授產事業の目的なるも慎重なる計畫を撰ばざるべからず故に本年中本會に於て開設の認可及經費補助の認可を與へたる支部事業は僅に左の如し

●三重支部津市授產所（定期救護金を併せ當分の內年々金千五百六拾參圓五拾錢補助）
●香川支部遺族癈兵授產所（定規救護金を併せ當分の內年々金貳千七百圓補助）
●岡山支部岡山盲啞院（現在入院者一名に付一ヶ年金拾貳圓を程度とし三ヶ年間補助）
●神奈川支部授產所（定期救護金の幾分を減し年々金千圓三ヶ年間補助）
●石川支部金澤市幹事部授產場　費用支部自辨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎岩手支部盛岡傳習所　同右

◎大阪支部事業部　同右

◎同支部泉北郡幹事部大和帽編製所同

外に本會に於て寄贈を受け更に東京支部に交付したるは左の如し

◎東京支部赤坂授産場建物器具見積價格金五千四百拾八圓拾八錢外に現金五百圓を添ふ

◎同　牛込授産場建物器具見積價格參百參拾參圓外に現金百圓を添ふ

備考前記の外各支部に於て軍人遺族及廢兵救護の爲め授産並に教育事業を開始せるもの二三に止まらざるも未だ本會の認可を經ざるものは之を擧げず又個人授産の爲に資本を與へ若しくは遺孤兒に對し修學費を與ふる事にも着手しつゝありて其成績佳なり

▲本部並に支部職員及有志會員に於ける凱旋軍歡送迎　一月十二日第二軍司令部同十四日第三軍司令部同十七日第四軍司令部同二十日鴨綠江軍司令部同廿七日第一師團司令部二十九日第一師團步兵第一旅團の凱旋を歡迎せり尚ほ前年に引續き新橋、品川、新宿各停車場に於て凱旋軍隊を歡迎し四月二日に至りて停む

▲遺族接待並菓子包裝の事　三月十三日第一師團臨時招魂祭四月十四日近衞師團臨時招魂祭の擧行に際し參拜遺族を接待せり

五月二日より同六日迄五日間靖國神社臨時大祭に付參拜遺族接待所を牛ヶ淵公園に設け來集の遺族四萬五千二百八十二人を接待せり又大祭委員部に出張して其接待事務を援助せり

四月廿三日より仝廿六日迄四日間前記大祭委員長の依託を受け本會並に東京支部職員の手に於て參拜遺族に頒與せらるべき軍用甘味品八萬七千九百七包の包裝を爲せり

▲弔慰狀發差　本年中戰死準戰死軍人遺族三千九百十六名に對し慰弔狀を發差せり

▲規則設定及改正　本年中評議員會の決議により本會規則類の設定及改正を爲したるもの左の如し

一本部支部職員服務內規設定
一贊助金配當規定改正
一會費配當規定中一部改正
一募集費臨時規定設定
一愛國婦人會旅費假規則設定
一優待員章并に門標贈與規定改正
一愛國婦人會支部規則第三條改正
一韓國支部會費其他配當法設定
一臺灣支部寄附金贊助金配當步合改正
一愛國婦人會徽章佩用規則第五條改正
一愛國婦人會韓國委員本部規則設定

其他同會に於て決議せし重要事項左の如し

一男子功勞者に贊助員章并に贊助證贈與の件
一三十八年度に於ける救護金分配の件
一奧村五百子へ一時慰勞金及養老年金贈與の件
一東京盲啞學校入學の準士官以下失明軍人學資給與の件
一參事會設置の件
△三十七八年戰役中本會功勞者に記念章牌贈與の件
△三十七八年戰役中本會の爲め功勞ある男子職員に木盃贈與の件
△有功章佩用者に三十七八年戰役記念銅牌贈與の件
一三井銀行第一銀行第三銀行浪速銀行加島銀行を本會預金銀行に指定の件
一本部顧問囑託　侯爵大山巖、東鄉平八郎兩氏に本部顧問を囑託ありたり
一理事選擧　子爵夫人岡部抵子氏を理事に選擧す

▲總會　本會第五回總會　五月二十日東京市內藤新宿植物御苑內に於て開く　皇后陛下行啓あらせられ優渥なる御令旨を賜ふ　總裁殿下名譽會員　東伏見宮妃　伏見若宮妃兩殿下並に　閑院宮殿下有栖川宮妃殿下の御台臨あり參列者總數一萬八千七百八十二人本會創設以來未曾有の盛會なりき

支部總會　本年中開催の各支部總會は左の如し

長崎支部第三回總會　四月七日
東京支部第一回總會　五月二十日　總裁殿下御台臨出席者約九千二百人遺族廢兵約千六百八十六人
京都支部第五回總會　五月二十五日　總裁殿下御台臨出席者七千百十二人遺族廢兵六百六十人
石川支部第一回總會　五月廿八日　總裁殿下御台臨出席者八千九百四十九人遺族廢兵千九百五十人
大阪支部第一回總會　前同日　出席者約七千人遺族廢兵千二百八十九人
秋田支部第一回總會　九月十九日　總裁殿下御台臨出席者二千九百八十九人遺族廢兵七百四十人
北海道支部第一回總會　九月廿三日　出席者三千人遺族廢兵四百十六人
韓國支部發會式　十一月十日　出席者約六百人
鹿兒島支部第五回總會　十一月十一日　出席者二千六百人遺族廢兵六百六十人
山梨支部第一回總會　十一月廿三日　總裁殿下御台臨出席者約二千九百五十八人遺族廢兵九百六十九人
幹事部總會群馬支部前橋幹事部外十五幹事部

▲遊說員派遣　本年中評議員奧村五百子氏を佐賀岐阜石川愛知大阪山形福島の各支部下に遊說員宮松眞喜子を前記七支部の外靜岡宮城大阪福井支部下に同野中彌知子を宮城秋田三重栃木(二回)支部下に派遣し到る處好成績を收めたり

▲本部職員支部出張　會長岩倉久子氏は京都及大阪支部總會に理事近衞貞子氏は石川支部總會に評議員東鄉鐵子氏は京都及大阪支部總會に同濱尾幹子氏に群馬支部前橋幹事部總會に同奧村五百子氏は石川支部及山形支部酒田[illegible]總會に同棚橋絢子同仁尾繁子の兩氏は千葉支部君津郡幹部集會に同酒井夏子同跡見花蹊の兩氏は秋田支部總會に同伊東美津子同高木鎌子同柳谷千代子の三氏は北海道支部總會に同阿部篤子仝佐藤猶子の兩氏は山梨支部總會に出張せり

▲委員本部設置　十二月韓國支部の稱を廢し更に韓國委員本部を設置せり

▲會員並有功章贈與數　本年末現在會員總數五十六萬三千八百八十四人內特別會員五萬八千八百九十九人通常會員五十萬四千九百八十五人にして昨三十八年末より增加せしこと十萬三百人外に贊助員二萬二千九百九十九人なり又有功章を附與せしもの特別徽章六人一等有功章百四人二等有功章二百二十九人三等有功章八百九十四人なりとす

明治三十九年度愛國婦人會計決算報告

基本金之部

一金貳拾九萬六千八百六拾圓九拾九錢六厘　三十八年度ヨリ越高
一金五千貳百貳拾八圓參拾六錢六厘　海內寄附金
一金七千八百九拾八圓四拾七錢　海外寄附金
一金貳千九圓拾八錢　一般贊助金
一金五萬七千五拾九圓八拾貳錢六厘　東京外四十一支部ヨリ規準外會費納金
一金參萬六千四百參拾四圓　國庫債券償還金繰入
合計金參拾八萬五千四百九拾四圓八拾參錢參厘　四十年度ヘ越高

用途指定寄附金之部

收入之部
一金貳百七拾九圓　拾錢　第五回總會菓子料寄附
支出之部
一金貳百參拾圓　第五回總會菓子代
差引金四拾九圓五拾錢　四十年度ヘ越高

收支決定之部

收入之部
一金拾六萬貳百拾貳圓八拾參錢七厘　三十八年度ヨリ越高
一金拾四萬九千貳百八拾八圓參拾錢貳厘　會費收納高
金拾四萬六千六拾參圓四拾參錢貳厘　規準內會費各支部納
金參千貳百貳拾四圓八拾七錢　海內外ヨリ本部ヘ直納
一金貳萬千九百八拾圓貳拾八錢　雜收入
此內譯
金貳萬千貳百九拾壹圓四拾五錢　預金及公債利子
金貳百八拾四圓七拾六錢參厘　徽章再渡代
金四十四圓六錢七厘　貸間料
合計金參拾參萬千八百八拾壹圓四拾壹錢九厘

支出之部
一金五千六百九拾六圓貳拾八錢參厘　事務費
此內譯
金四千百拾壹圓五拾九錢　諸給
金四百參拾參圓八錢　借地料
金百貳拾圓　廣告料
金百四拾九圓九拾壹錢　紙[illegible]費
金參百參拾四圓五拾參錢　郵便電信料
金四拾九圓四拾六錢九厘　器具費
金貳百壹圓貳拾九錢五厘　車代
金四拾八圓六拾五錢　辨當料
金九拾五圓拾七錢參厘　營繕費
金百五拾貳圓八拾八錢　雜費
一金四萬貳千百六拾參圓四拾六錢貳厘　事業費
此內譯
金參千百八拾壹圓六拾貳錢八厘　印刷費
金壹萬九千貳百七拾四圓四拾壹錢　徽章製作費
金千九百拾貳圓五拾錢　門標新調費
金八千五百拾七圓參拾九錢六厘　擴張旅費
金千四百四拾八圓八拾六錢貳厘　運送費
金貳千八百六拾圓壹錢六厘　總會費
金參千九百五拾六圓拾參錢　靖國神社大祭接待費
金千五拾貳圓拾四錢　日露役紀念賞品費
一金七萬五千百四拾參圓五拾錢　救護金
此內譯
金四萬四千百四拾六圓五拾錢　定期救護金
金壹萬九千貳百拾圓　特別救護金
金壹萬千七百八拾七圓　臨時救護金
合計金拾貳萬參千貳圓九拾四錢五厘
差引金貳拾萬八千七拾八圓四拾七錢四厘　四十年度ヘ越高

三十九年度末資產負債表

負債之部
一金參拾八萬五千四百九拾四圓八拾參錢參厘　基本金
一金四拾九圓五拾錢　用途指定寄附金
一金貳拾萬八千七拾八圓四拾七錢四厘　本年度剩餘金
合計金五拾九萬參千六百拾八圓八拾錢七厘

資產之部
一金四拾七萬貳千圓　銀行定期預金
此內
金九萬六千圓　森村銀行
金七萬圓　十五銀行
金五萬圓　日本興業銀行
金九萬八千圓　第三銀行
金五萬圓　三井銀行
金壹萬圓　第一銀行
金五萬貳千圓　浪速銀行
金四萬六千圓　加島銀行
一金拾萬千九百五拾參圓七拾七錢　銀行當座預金
此內
金貳萬五千百五拾圓貳拾錢　森村銀行
金壹萬貳千五百七拾八圓六錢　十五銀行
金七千參百六拾壹圓四拾六錢　日本興業銀行
金參萬千百拾九圓四拾五錢　三井銀行
金貳萬五千七百四拾四圓六拾錢　加島銀行
一金千四百圓七拾錢　公債證券
一金拾圓　貯蓄債券
一金五千四百六拾圓　所有家屋
一金五百四拾八圓四拾錢　什器
一金壹萬貳千圓　四十年度經費繰替
一金貳百四拾五圓九拾貳錢七厘　現金
合計金五拾九萬參千六百拾八圓八拾錢七厘

右之通候也

明治四十年四月十五日

愛國婦人會

會長　公爵夫人　岩倉久子
理事　公爵夫人　一條悅子
同　公爵夫人　德川泰子
同　前公爵夫人　近衛貞子
同　公爵夫人　島津田鶴子
同　前公爵夫人　毛利安子
同　侯爵夫人　大山捨松
同　侯爵夫人　鍋島榮子
同　侯爵夫人　山內禎子
同　子爵夫人　谷滿玖子
同　子爵夫人　岡部抵子

右監査を遂け相違なきことを證す

監事　公爵夫人　九條惠子
同　男爵夫人　三井苞子

明治四十年五月二十日發行（愛國婦人）（定價金三錢　一ヶ月六錢　郵税不要　廣告料一行金六拾錢）　發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　東京麴町區　愛國婦人發行所　印刷所　東京牛込區　秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十年五月廿日發行（每月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人會に於て靖國神社臨時大祭の節遺族接待の光景（神社詰職員）

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN